

2019～2021 文部科学省

地域との協働による高等学校教育改革推進事業
(グローバル型)

実践報告書

(2021)



福井県立丸岡高等学校



はじめに

福井県立丸岡高等学校 校長 島田 芳秀

令和元年度に「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」の研究指定を受け、本年度が研究指定の最終年となりました。生徒達が本事業で大きく成長したことは、様々なアンケート調査結果で明らかになっています。例えば、3年前から継続して実施している「高校魅力化評価システム」の高校に対する生徒達の満足度の推移を見ると、グローバル事業を開始した令和元年度は62.2%でしたが、令和3年度には83.4%となり、大きく上昇しました。また、地元の坂井市が独自に行っている「将来の居住地・まちづくりに関するアンケート集計結果」においても、地域課題の解決に係わりたいと回答した生徒が70%を越え、調査した高校の中では、本校が最も高くなっています。他の結果も細かく分析していくと、地域との地道な取り組みが生徒の意識や行動を少しずつ変え、高校に対する満足度の上昇や地域への愛着と地域で暮らしながら海外に目を向ける意識の拡がりにつながったものと考えられます。

本校では、この3年間の研究成果をもとに、令和4年度入学生から、普通科普通コースにかわり、普通科みらい共創コースと普通科スポーツ探究コースの2つのコースを新設しました。両コースとも、地域人材を始めとする多様な人々との交流や経験を通じ、変化する社会への対応力を持ち、広い視野で課題を解決し、新たな価値を創造できる自己肯定感の高い生徒を育てていきます。

両コースに共通する学校設定教科「みらい」では、「世界を知る」、「自分を知る」、「自分を磨く」の3つのプログラムが用意されています。「世界を知る」プログラムでは、地域の方々によるリレー講座や大学での公開講座の受講、留学生との交流や企業との地域の担い手づくり等を行います。「自分を知る」プログラムでは、ソーシャルスキル・ピアサポート・レジリエンス教育等のポジティブ教育を行います。「自分を磨く」プログラムでは、起業家育成やプレゼンテーションの基礎、問いの立て方や考える力を育成します。研究指定を受けて研究開発した学校設定科目「グローバルスタディ英語」、「グローバルスタディ社会」も引き続き実施し、海外との課題解決型オンライン学習やSDGsを行います。

現在、普通科高校の魅力化が県内の各高校で進められています。本校は文部科学省の3年間の研究指定があったからこそ、子どもたちの未来を見据えた2つの新コースが誕生しました。生徒達が変容したことで、教員の意識も大きく変わりました。4月から入学してくる1年生が、3年後にどのような成長を遂げているか、今から楽しみにしています。

最後になりますが、本研究事業の実施にあたり、ご指導・ご支援を賜りました運営指導委員、カリキュラム開発専門家、海外交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員の皆様をはじめ、坂井市、福井大学教職大学院、福井県立大学、福井県教育総合研究所、丸岡ロータリークラブ、企業等、関係各位に厚く御礼申し上げます。巻頭のご挨拶といたします。

目 次

はじめに

目次

事業への取り組みの経緯と概要	1
M-PROJECT ～将来を生きる力を”今”育む地域探究活動～	3
第1学年 M-PROJECT	5
第2学年 M-PROJECT	12
第3学年 M-PROJECT	20
ワールドユースミーティング（WYM）2021	30
丸岡城サミット	32
丸高カレッジ	34
地域活性化派遣プロジェクト	37
丸岡南中学校との中高連携企画	39
地域コーディネーターとの協議会	41
グローバルスタディ英語	43
グローバルスタディ社会	45
E S S 「多文化共生社会に向けての取り組み」	47
地域協働部	49
美術イラスト部	51
吹奏楽部 ～地域とつながる「お城のまちのコンサート」～	53
書道部	56
地域協働コーディネーター	58
丸高グローバル通信	60
この1年の省察と次年度への方向性	70
令和4年度からの新しい丸岡高校	77

事業への取り組みの経緯と概要

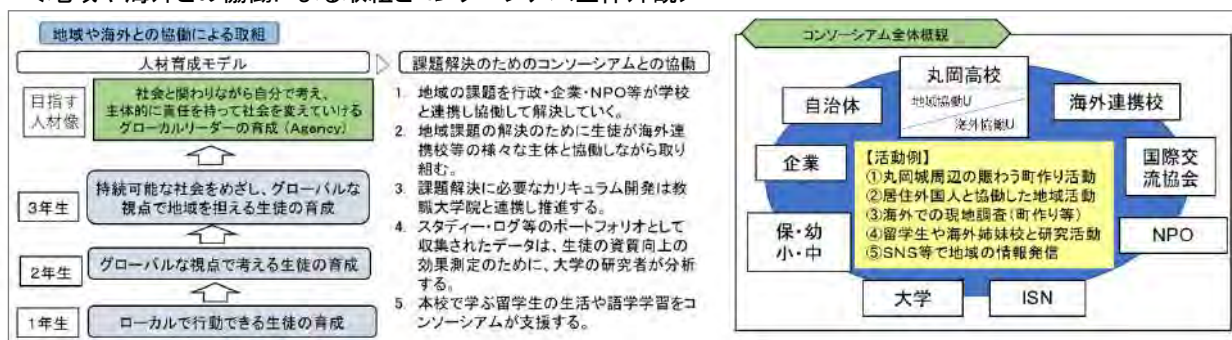
1. これまでの経緯

本校が学校改革に本格的に取り組み始めたのは2018年からである。長年親しんできた本校の教育目標を、「文武両道」から“Think globally, act locally to make your dreams come true”（グローバルな視点で考え、ローカルで行動しながら、自己実現を達成する）と改め、学校の魅力化を推進してきた。同年にはOECD日本イノベーション教育ネットワーク（ISN2.0）に実践校として参画し、世界（グローバル）と地域（ローカル）を合わせたグローカルな視点で、課題解決型学習のモデル開発に関する研究に取り組んでいる。そして令和元年度(2019)より、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型）」の指定を受け、現在3年目を迎えている。本校がこれまで「総合的な学習の時間」で実践してきた「ふるさと探究学習（M-PROJECT）」を、さらに発展させた形でグローカル事業の中心に置き、「社会と関わりながら自分で考え、主体的に責任を持って社会を変えていくことができる、グローカルリーダーの育成」に取り組む、生徒、保護者、地元の教育機関（保幼小中等）、地元企業、行政、そして地域住民にとって魅力ある学校作りを目指している。

2. 組織体制

本校の組織体制は、大きく3つのカテゴリーからなる。一つ目は、本校を起点に、PTA・NPO・自治体（坂井市・あわら市）・地元企業などをつなぐ「横」のつながりである。この横のつながりの中心的な役割を担っているのが、坂井市とアズAS☆（あわら坂井ふるさと創造推進協議会）である。二つ目は、本校と地元の保幼小中学校との「縦」のつながりである。最後の三つ目はこれらを大学や海外へと展開する「外」のつながりである。これらのカテゴリーを有機的につなげた組織にすることが目標である。

<地域や海外との協働による取組とコンソーシアム全体外観>



<校内組織図> (全職員がいずれか(または複数)のユニットに所属している) ★新規事業 ☆名称変更事業

各ユニット名称	事業内容
事務局	各ユニットの総括、各事業の運営
M-PROJECT	①1年 ②2年 ③3年
地域協働	①丸岡城サミット ②丸高カレッジ ③地域活性化派遣プロジェクト
海外協働	①☆タイとの交流 ②☆台湾との交流 ③☆フィリピンとの交流 ④★県内留学生との交流
学校設定科目	①カリキュラム ②探究活動を取り入れた授業研究 (JKB) ③グローカルスタディ英語 ④グローカルスタディ社会
発信	①☆中学校への魅力発信 (丸高グローカル通信) ②★出前講座 ③丸高ホームページ管理 ④研究報告書・編集 ⑤成果発表
検証・評価	グローカル運営指導委員会
事務	会計
部活動	地域協働・海外協働活動
その他	先進視察

3. 今年度の重点項目

これまでの経緯を踏まえ、今年度は、以下のような項目に取り組んだ。

- (1)教育活動全般を通じた探究的な学び
 - ①学年間の交流の機会の確保・・・総合的な探究の時間、教員研修会
 - ②総合的な探究の時間から教科学習へ・・・拡大 JKB
- (2)情報発信と継続的な協働関係の構築
 - ①情報発信計画の見直し・・・丸高グローバル通信他
 - ②コンソーシアムとの協働事業の推進・・・地域との連携、教育機関との連携
- (3)学校の魅力化
 - ①生徒の資質能力の向上・・・成果報告会
 - ②生徒の自己認識の向上から学校の魅力化へ・・・アンケート分析
- (4)学びの土壌から進路実現へ
 - ①学習環境の充実・・・みらい☆タイムの活用
 - ②個々の進路実現・・・進路支援体制づくり

4. 今年度の新しい取り組み

今年度の新しい取り組みの中から主なものを2つ紹介する。

(1)丸岡高校地域協働コーディネーターの常駐

今年度、坂井市の地域協働コーディネーターが週4日、本校職員室に常駐することになった。本校と地域住民や団体をつなぐ役割を担うと同時に、本校の授業や部活動にも携わり、地域との協働によるグローバル探究型の教育実践に大きく貢献している。

①授業支援

各学年の「総合的な探究の時間」に実施している探究学習では、生徒の活動支援や助言、地域団体との交流窓口業務を、また本校の学校設定科目「グローバルスタディ」では、国際理解に関する講義、多文化共生といった国際理解に関する講演会やSDGs推進企業との交流会を企画運営している。

②地域協働・海外協働事業

地域協働事業では、地域住民や本校生徒とともに地域課題をテーマとして掘り下げる、市民公開講座「丸高カレッジ」の企画運営に携わっている。また地域と本校生徒をつなぐ「地域活性化派遣プロジェクト」の運営を担当している。海外協働事業では、「県内留学生との交流」事業の企画運営、また海外在住者とのオンライン意見交換会を企画運営している。

③発信事業

今年度は地域や地元中学生への魅力発信の充実を図り、毎月発行の「丸高グローバル通信」事業を「中学校への魅力発信」事業と名称変更した。この通信のレイアウト、学校ホームページ記事の英語表記、さらには小中学生や市民を対象とした国際理解の「出前講座」の企画運営を担当している。

(2)「みらい☆タイム」の導入

今年度より、生徒に時間を返すことを目的として、全学年週35時間から32時間にカリキュラムを変更し、週3時間を「みらい☆タイム」として運用開始した。「みらい☆タイム」という名称は、校内で募集をし、生徒の応募作品の中から選ばれたものである。

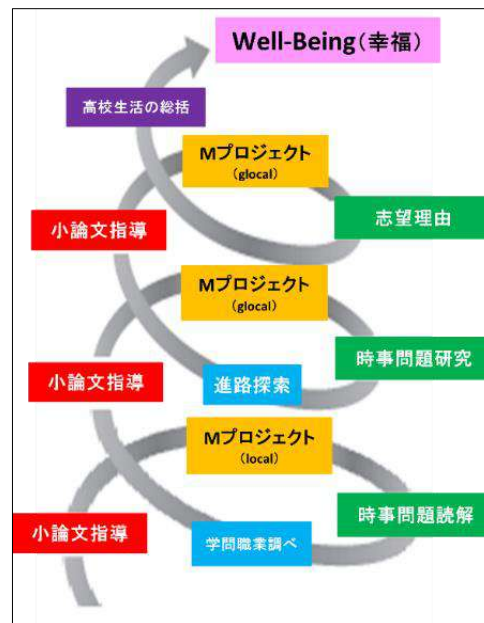
毎週月曜、水曜、金曜を7限授業から6限授業にすることで、生徒自身がやりたい課題に取り組む時間を確保した。例えば、M-PROJECTで協働している地域の連携先を訪問する、苦手教科の課題に取り組む、教科担任に質問する、面接指導や小論文指導を受ける、学習アプリで自学に励む等、生徒一人ひとりに適した学習環境を整備することにより、生徒の主体的な学びを保障している。

M-PROJECT ～将来を生きる力を”今”育む地域探究活動～

1. 「総合的な探究の時間(CF)」と「M-PROJECT」

本校は「総合的な探究の時間(通称 CF)」を体系的に行っており、M-PROJECT はその中に位置づけられている学びである。CF は大きく 3 つのカテゴリーに分けられ、一つは進路的な学び、一つは小論文学習を含めた時事問題探究、そしてもう一つは主として地域との協働探究学習として位置づけているこの M-PROJECT である。そしてこれらの横断的・総合的な学習を通して、自己の在り方・生き方を考えながら、課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指している。また、探究学習とともに、キャリア教育を行い、キャリアを形成していくために必要な能力や態度の育成を図り、将来の進路実現に繋げていくことを目標としている。

右記のいずれの活動においても、AARサイクル「Anticipation(見通し)－Action(行動)－Reflection(省察)」を組み込んで学習を行う。また、これらを繰り返すことで「深い学び」となり、課題を解決していくための資質・能力の育成を目指す。



【CF の学習のイメージ図】

2. M-PROJECT ～各学年の探究課題と育成を目指す資質・能力～

M-PROJECT は、MARUOKA-PROJECT の略で、「学年の設定した探究課題において、自分の興味・関心のある事柄・分野について、自らが課題を設定し、学び、仲間と課題を共有し、考え、まとめ、発表する学習」である。

今年度の M-PROJECT をスタートさせるにあたり、まず教職員全体の共通理解を図るために、教員研修会を開き、今年度の各学年の探究課題や育てたい資質・能力を以下のように設定した。

(1)1年

【探究課題】

ローカルな視点で、地域の良さ、地域の問題点を知り、地域の課題を見つけ出す取り組み

【資質・能力】

- ① 地域にアクセスする力・・・フィールドワークやインタビュー等で
- ② 情報収集、活用する力・・・事例研究やポスター制作、発表等
- ③ 主体性、責任感 ……すべての活動において

(2)2年

【探究課題】

グローバルな視点で、地域の課題を掘り下げ、地域活性化につながる解決策への取り組み

【資質・能力】

- ① 主体性・・・SDGsについて正しく理解し、粘り強く課題に取り組む行動力
- ② 探究性・・・SDGsの観点で地域の課題を発見し、多面的に考察する力
- ③ 協働性・・・他者と協働し、成果を発信する表現力
- ④ 社会性・・・地域の一員として、持続可能な社会づくりに貢献しようとする意識

(3)3年

【探究課題】

キャリア探究学習として、2年次からの地域活性化策の総仕上げと、それを自分自身の進路実現に生かす取り組み

【資質・能力】

- ①最後までやり遂げる実行力
- ②問題点を発見し解決できる力
- ③持続可能な地域社会を創造する力
- ④Co-Agency(共同エージェンシー)

3. 成果と課題

まず、この探究活動が生徒の新学力観の育成を促し、3年生の進路実現にも活用されたことが成果である。次のデータ結果も使って紹介する。本校の“学校評価”や“高校魅力化評価システム”の生徒への調査で、「しっかりあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と肯定的回答をした割合である。()内は本校の目標指数、または3年生の割合、他地域の他校平均である。

- (i)探究学習や進路学習を通して、記録をし、自分自身を振り返ることができた…90%(目標指数70%)
- (ii)地域を対象とした課題探究学習に熱心に取り組んでいる…77.2%(3年生:86.6%、他地域:57.3%)
- (iii)地域をよりよくするため、地域の問題に関わりたい…72.2%(3年生:84.0%、他地域:61.7%)
- (iv)将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい…76.6%(3年生:89.9%、他地域:70.6%)

上記のように、本校の M-PROJECT を含む探究活動は、本校の目標指数や地域探究活動に取り組んでいる他地域の他校平均を上回っている。以前の本校生と比較しても、人前で堂々と発表ができ、プレゼンカや主体性を身につけた生徒が明らかに増え、頼もしく思う。

また、2,3年生での地域活性化策の探究活動では、探究課題は生徒の進路希望に沿ったものとしている。高校での学びが、進路先での学びや自分の将来につながるものであり、これにより生徒達の探究の取り組みは学年進行とともに大幅に向上している。そして3年担任からは、この探究活動が、新学力観「学力の3要素」にともなう新大学入試等の進路実現に大いに生かされたとの声をきいている。生徒達は、志望理由書や面接、活動報告書等で、探究活動を大きな材料として入試に臨むことができた。担任も新入試により記入量が増えた調査書や推薦書にも対応することができたとのことである。

次に課題である。本校の進路指導部の学びの方向性として、「学力の3要素」を育てる方策として、“教科の学力”と“探究”の両軸でバランスを考えて進むとしている。ただ現在は、探究の負担が多すぎるとの声が先生方から聞こえ、大きな課題である。ただ、研究指定3年目となり、M-PROJECTの1年から3年までの実践事例が揃った。これにより、今後は3年間を見通した、第1学年からの取り組みを考えることができるようになった。現3年生の本校のパイオニアとして取り組んできた3年間の M-PROJECT への奮闘に感謝したい。

今年度4月の M プロ教員研修会でも、「現3年生の1,2年次の取り組みをベース(大きな幹)として考える。ただし、これはあくまでベースであり、生徒達にどのような資質・能力を身につけたいかを念頭に、学年の先生方の思いで、改良や新しいものを作っていく。」という共通理解を得てスタートした。今年度末には、3年間の取り組みを記録した実践報告書が出来上がり、本校の大きな財産となる。今後もこれが積み重なり、年々生徒達の取り組みはより質の高いものとなるであろう。これは大きな成果であり、負担軽減への1つの道筋でもある。

第1学年 M-PROJECT

1. ねらい

本校が総合的な探究の時間(通称 CF)で掲げる、3年間で育てたい資質・能力は、「①地域や世界と関わりながら、自分で考え、主体的に責任をもって行動できる力」、「②多文化共生社会をめざし、外国人と共同して課題を発見し解決する力」、「③世界的な視野で地域の資産を生かして、新しい産業を生み出す起業力」の3つである。このうち、1年生は①をターゲットとし、次の3つを重点目標と定めた。

「A 地域へアクセスする力」「B 情報収集・活用する力」「C 主体性・責任感」

これらの目標と年間テーマ『未来に残したい地域の宝』は前年度の1年生と概ね同じであるが、今年度の学習ではこれらの目標を達成するとともに、生徒全員に貸与されたタブレットを活用して、ICTの活用法を学ぶこともねらいとした。

2. 実践報告

1学期の時点では、これまでの1年生が取り組んだ実践(地域の中で外部と接触し、地域活性化の需要を直接探り、その課題と解決方法を提案する)を踏襲する予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、外部と触れ合うような探究活動や校内でのグループ活動に関しては、国や県の方針に沿いながら、常に調整する必要があった。

8月、学校祭の学年行事を考える際に、コロナウイルス感染予防の措置として、地域の宝を動画でPRする案が上がった。これを機に、今年度の1年 M-PROJECT は、前年度からの目標とテーマを受け継ぎながら、ICTの活用を主軸に探究活動していくことになった。結果として、今年度の活動のもう一つの目標は、「ICT活用のノウハウを習得し、来年度の探究学習に活用する」というものになった。

活動形態は、開始当初はクラス単位でのグループ活動、3学期にはクラス横断でのグループ活動を主軸とした。

(1) <6月>「課題解決学習とは」

①全体講演『課題解決学習とは』(6/3)

1年生の探究活動として、まず初めに課題解決型学習の基本的な考え方や学習方法、他校での実践例について学ぶ場を設けた。福井県教育総合研究所の吉田英史先生から、課題解決型学習の必要性について講義をいただいた。

②フィールドワークの準備(6/10)

1学期の活動は「未来に残したい地域の宝」という年間テーマのもと、重点目標を達成するためにもフィールドワークを通じて地域の宝を探ることを活動内容とした。各クラスで4～5人のグループを作り、丸岡町内のどの場所に行くかを決めた。2時間以内に活動が終わるように、探索するエリアは丸岡高校から片道30分以内の場所とした。その際、目的地決めを円滑に行うためタブレットを使用し、自分たちが行きたい場所をグーグルマップなどで調べた。



③フィールドワーク(6/17)

前時で決めたグループ毎にフィールドワークに出向き、各自が実際に見つけた地域の宝を写真に撮っ

た。宝について特別な制限を設けず、地域の施設や店、自然など、多岐にわたるジャンルの宝を見つけ
てきた。フィールドワークはグループで行ったが、地域の宝の写真は一人一枚必ず撮ってくることにした。

④レポート作成

フィールドワークで各自が見つけてきた宝について、A4のレポートに仕上げた。レポートについては「タイト
ル」、「フィールドワークで撮った写真」、「その場所の情報や良いところ」は必ず書くように指示し、それ以
外については生徒が自由に考え作成した。手書きのポス
ターを作る案も出たが、管理のしやすさ、仕上がりの綺麗
さを優先し、レポートはタブレットを使用し、グーグルドキュメントで作成した。



⑤グローバル中間報告会(7/19)

このレポートはグローバル中間報告会で1年生の活動と
して体育館に全員分掲示した。その際、全校生徒と来校
者に投票してもらい、3名の「優秀賞」受賞者を選出した。
また、生徒が自分で撮った写真をレポートにしたというこ
とから、写真の光陽様のご協力のもと「写真賞」受賞者も
選出した。写真賞は「最優秀賞」1名、「優秀賞」を2名選
出した。全校生徒には投票用紙以外に付箋も配布し、気
になったレポートに対する感想などを書き、そのレポートに貼
ってもらった。これにより生徒は自分のレポートの評価をダイ
レクトに受け止めることが出来た。



優秀賞のレポート (3点)



写真最優秀賞(左) 優秀賞(中央、右)

(2) <7~9月>「学校祭で地元の宝をPR」【クラス活動】

①この企画の経緯

新型コロナウイルス感染予防措置として、学校祭での学年企画である合唱コンクールができなくなったことが本計画の契機となった。今年度の1年生は「垂れ幕制作」、「校内装飾」、「CF発表」の3つのグループに分かれて活動した。このCF発表は「学校祭準備期間のみで完成させること」、「生徒が主体的に取り組むこと」、「生徒のICTのスキルを養うこと」を目標に企画された。一つ目の目標は、生徒と担当教員の負担軽減のためである。二つ目の目標は過去の活動の反省点を参考に設定した。教員がサポートしすぎてしまい、生徒の活動というより教員の活動になってしまうこともあったため、今年度の活動では生徒が自分で調査に行き、発表を行うという、生徒主体の活動になるよう心掛けた。三つ目の目標は新しい取り組みとして、生徒に動画制作を学ばせた。発表の形式にバリエーションを持たせたいと考え、今年度の地元PRの発表はプレゼンテーションか動画のどちらかで取り組むこととした。結果、4グループのうち3グループが動画作成に取り組んだ。

②取材場所決定(8/25)

取材場所が被らないように「自然」「歴史」「施設」「企業・店」の4つのジャンルから各グループが一つ選んで取材場所を決定した。ジャンルが決まった後、そのジャンルにあった場所を具体的に決めた。その結果、1組は「King's 8 Diner(ハンバーガー店)」、2組は「丸岡城」、3組は「ゆりの里公園、丸岡バスターミナル」、4組は「豊原滝」取材することになった。取材場所が決まった後、発表の構成を考えさせた。実際に現場に行きたい生徒には初日から取材に行かせた。

③発表の構成を決定、動画作成をレクチャー(8/26)

発表の大まかな構成を決め、担当教員に提出。担当教員から承認を得たグループは取材、及び動画の作成を開始した。作業の効率化を図るために、「取材班」と「動画制作班」に分かれて作業した。動画制作班にはパソコン室にて動画編集の基本操作をレクチャーした。

生徒には主に、「動画、写真の取り込み」、「動画、写真のカット」、「BGM、効果音の挿入」、「テロップの挿入」の4点をレクチャーした。他の操作については生徒の進捗状況に合わせて、個別に対応した。

④取材、発表準備作業(8/27~8/31)

基本的な方針、動画の編集方法を説明した後は、なるべく担当教員から指示は出さないよう心掛け、進捗状況の確認と取材内容の助言に止めた。取材が終わった後、動画制作班は作業を進め、取材班は動画に吹き込む説明を考えた。動画制作も取材も2人程度で十分なため、グループメンバーは4~5人が適している。

動画制作は早いクラスは8/30に終わり、他のクラスも文化祭の予行の前日には完成した。動画が完成すれば、当日のトラブルがほとんど発生しないため、文化祭予行日と当日は生徒も担当教員も負担が少なかった。

⑤文化祭当日

文化祭当日はプレゼンテーション形式の2組から始まり、1組、4組、3組の順で動画を流した。パソコン室で完成した動画を見た時と体育館では音の反響具合が違うため、少々聞き取りづらいクラスもあったが、発表としては概ね成功した。発表は右の表の三つの観点で審査員が評価した。また発表を見ていた他の教員の評価も記載しておく。

審査項目	発表に役立てている資料は視聴者に分かりやすく伝わっているか	魅力が伝わるよう、十分に調べ、発表に工夫がまわっているか	視聴者に分かりやすいように工夫しているか	合計	順位
	10点満点	10点満点	10点満点		
青					
黄					
桃					
赤					



「King' s 8 Diner」(1組)



「ゆりの里、バスターミナル」(3組)

<教員の評価>

- ・時間がない中でよく出来ていた。
- ・BGM やアニメーションを使って飽きない工夫がされていた。
- ・店主や管理者に直接インタビューすると更によかった。

(3)<10~11月>「地域の誇りと課題を探る」【全体活動】

2学期の M-PROJECT は1学期で調べた地域の宝について、別の視点から考えていった。10月におこなった「地域・文化歴史施設奉仕作業」、11月に実施したあわら坂井ふるさと創造推進協議会(アズAS)主催「地域の担い手づくりプログラム」、丸岡高校の卒業生にご協力いただいた「ようこそ先輩」を通して、地域の宝について改めて考えた。

①地域・文化歴史施設奉仕作業(10/26)

身近な地域とその文化歴史施設の奉仕作業を通して、地域の文化や歴史への理解を深めるとともに、奉仕の心を育むことを目的とした。奉仕場所についてはワークシートを使った事前学習も行



い、その場所の特徴についても調べた。奉仕場所ではその場所の管理者や関係者に講話をしていただき、地域の施設について学習し、その魅力について再確認した。

②地域の担い手づくりプログラム(11/11)

この講座は、生徒にチームワークやコミュニケーションの大切さを学んでもらうことを目的に、坂井市・あわら市内の企業の方に来校していただきグループワークを行った。企業の方から、地元の企業の魅力や強み、企業人としての考え方を直接学ぶことができ、生徒一人一人が企業の方と語る貴重な体験となった。また、インタビューしたことを40分余りでポスター1枚に仕上げ、発表する作業は、以後のプレゼンテーション発表に繋がった。



企業人にインタビュー



ポスター作り



ポスター発表

③ようこそ先輩(11/18)

丸岡高校卒業生と経済同友会の協力により、現所在地元で働いている先輩たちから直接話を聞く場を設けた。仕事の具体的な内容や様々な経験、必要な知識を知ることで、生徒自身が人生について考え、進路意識を高めることを図った。また授業の後半では先輩方と地域の課題について考え、解決策についても模索した。



(4) <1~3月>「課題考察とその解決にむけて」【班活動】

3学期の探究学習では1、2学期で気づいた地域の宝について、「良いところ」「良くないところ」「その課題をどう解決するか」の3点を重視して、グループで資料を作成しプレゼンテーションした。生徒同士のコミュニケーションを幅広くとること、どんな相手とでも活動する能力を養うことを目的にしたため、クラス横断のグループで実施した。

①冬休みの課題

1月の活動が円滑に進むように、自分が思う「地域の宝」を調べさせ、冬休みの課題レポートとした。1学期までのレポートは「どんな場所」で「どんな良いところ」があるか、に着目したが、3学期では「足りないところ」とそれを「どう解決すべきか」も考えた。

②グループ内発表(1/20)

3学期のCFはクラス横断で4~5人のグループを25グループ作り、5教室に分かれて活動した。グループ内で生徒同士が冬休みの課題について発表した。発表形式は生徒全員がタブレットを持ち寄り、それを他のメンバーに見せながら発表する、というものだった。その発表の中で特に興味を引いた題材を3月16日の最終報告会で行うプレゼンテーションのテーマとした。



③教室内発表(1/27)

プレゼンテーションのテーマが決まった後は、各教室で他のグループに発表した。その際アドバイスや気になることをメモした紙を発表したグループに渡し、自分たちの発表の足りないところを考えさせた。発表後、プレゼンテーションのためのグーグルスライドのフォーマットを生徒に配布し、グループ内で共有した。これによりグループで集まることなく、各自がプレゼンテーションの作成をすることが出来るようになった。

④アンケート作成(2/9、10)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大によりクラスを横断してのグループワークが制限され、2月末までは班で集まって活動することが出来なくなった。そこでGoogleフォームを活用して、各クラス担任がアンケートの作成方法をレクチャーした。アンケートの内容は自由なものとして、完成したものをクラスルームに掲載し、お互いに回答させた。さらにアンケートをQRコード化し、休校中に家族や友人に答えてもらうようにした。このアンケート結果をグラフに表し、その結果から考察したことをレポートにし、課題として提出させた。

⑤ 調査用アンケート作成(2/18)

3月16日の成果報告会で行うプレゼンテーションのテーマに関するアンケートをGoogleフォームで作成した。そのアンケートを2、3年生の生徒及び教職員に回答してもらった。その回答結果から自分たちが調べるテーマの課題について再度考え直し、より明確な課題と解決方法を導き出すことをねらいとした。

⑥ プレゼンテーション作成(3/10、11、14、15)

2月18日に作成し配布したアンケートの回答結果をもとに、グループで新たな課題を考えた。自分たちだけでは考えられなかった課題も見つかり、より広い視野でテーマに向き合うことが出来た。プレゼンテーション作成には、各教室の担当教員が主にアドバイザーとしての役割を担った。

⑦ 成果報告会(3/16)

当日、1年生は前半グループと後半グループに分かれ、それぞれのグループで1回ずつ発表を行った。また1グループ1回は必ず質問をするように指示した。当日は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、助言者はオンラインでの参加となった。オンラインによる接触不良や通信障害は少々あったものの、多くの生徒が堂々と発表することが出来た。助言者の方々からも多くのアドバイスをいただき、1年生が来年度に取り組む活動の一助となった。報告会終了後、生徒はルーブリックによる振り返りをして自己評価を行った。



写真 成果報告会の様子

↓振り返り用ルーブリック表

	A	B	C	D	自己評価
地域にアクセス	①地域の宝について十分に調べることが出来た。 ②見つけた宝の良い点、悪い点について十分に考えることができた。 ③見つけた宝の課題をどう解決するか具体的に考えることが出来た。	①～③のうち2つが当てはまる。	①～③のうち1つ当てはまる。	①～③のどれも当てはまらない。	
情報収集・活用する力	①タブレットを使って自分たちが探した地域の宝について、正しい情報を集めることが出来た。 ②アンケートを通して地域の宝の情報を得ることができた。 ③アンケートの結果を集約し分かりやすくまとめることが出来た。	①～③のうち2つが当てはまる。	①～③のうち1つ当てはまる。	①～③のどれも当てはまらない。	
主体性・責任感	①プレゼンテーションやその準備において班員に自分の意見を伝えることができた。 ②地域の宝について課題や魅力を考え、班員と共有できた。 ③オーディエンスに向かって堂々と発表することが出来た。	①～③のうち2つが当てはまる。	①～③のうち1つ当てはまる。	①～③のどれも当てはまらない。	

3. 工夫した点と成果があった点

今年度の活動では、レポート、PR 動画、アンケート、プレゼンテーションなど、多岐にわたる分野で ICT の活用を促した。簡単な使用法は担当教員が説明し、細かい工夫などは生徒の自由にさせた。その結果、タブレットの操作方法などは例年よりも身についたと言える。

4. うまうまなかった点と理由

2学期の M-PROJECT では外部の方々にお話をさせていただくことが多かったが、その話をまとめたり考察したりする時間を設けることが出来なかった。また3学期の調べ学習では現地でのインタビューなど直接外部と接触することは出来なかった。新型コロナウイルス感染症の拡大が大きな要因ではあったものの、活動に要する時間や教員の負担も大きく、幅広く活動するには限界があった。主担当の教員が十分に準備できなかったのも要因の一つである。

5. 生徒の感想

- ・自分たちの調べた宝について伝えることができ良かったです。また、2年生は考えたことを連携して行動に移っていてすごいと思いました。
- ・いろんな人のスピーチを聞いて、丸岡にもたくさんの魅力があるんだなと思いました。
- ・自分の発表が周りの人達に認められてよかった。もっと丸岡について知りたいと思った。
- ・班の人と協力して作ったので、皆に見やすいように作れた。
- ・大人の人や仲間たちの意見をもらい良い経験になった。

6. 実践を通しての変容

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により外部との接触は減ったが、その一方でオンラインでの作業や交流が増えた。そのことにより生徒が独自で調べ、考察し、まとめる力がついた。また ICT を活用する場面が増えたことで、タブレットや編集ソフトの扱いに長けた生徒が多くなった。

7. 今後の課題と展望

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による行動制限は予測が難しいため、その時々で対応していかなければならないが、今年度の活動で特に課題となったのが、「活動時間」と「教員の負担」である。

学年全体で十分な探究学習をするためには、それ相応の時間を確保する必要がある。しかしその膨大な時間を有効に活用できない生徒も出てくるのが予想される。実際にこれまでの探究学習でも時間を持て余す生徒は各学年で少なからず存在した。そうなれば時間を無駄にしてしまうだけでなく、生徒を指導する教員の負担も大きくなる。これらの問題を解消するためには、生徒個人が独自で探究学習できるような課題の設定を行い、無理のない計画的な授業展開をしていく必要がある。学校の時間割の中で活動時間を増やすのではなく、1単位の中で最低限のことを指導した上で、生徒がより柔軟に動ける放課後や休日に探究学習させることが有意義な活動に繋がるのではないかと考える。

第2学年 M-PROJECT

1. 本年度の活動の柱と目標

2年生は昨年度の1年次に「未来に残したい丸岡の宝」を年間テーマに、地元の商品をPRしたり、地元企業とタイアップして商品開発をしたりする活動を行った。昨年度の課題としては、『地域にアクセスする力』『企業の魅力や強み取材しPRする』ことに活動が傾注し、そこから問題意識を共有したり、自ら課題を設定して自分事として考え実行したりする力を十分に伸ばせなかったことが挙げられる。

これを受け、2年次においては、グローバルな視点で地域や世界の課題を「掘り下げて解決策を探究していく」という、一歩進んだ課題を設定することとした。また、3年生になった時にM-PROJECTでやってきたことを生徒の進路実現につなげたい、単なる提案で活動を終えるのではなく、企業等との協働で発信(行動)したいという考えもあった。

そこで、2年生での主な活動を昨年度の2年生の活動を参考にしながら

- (ア)SDGsについての理解を深めること
- (イ)SDGsの視点を持ち、坂井地区(坂井市・あわら市)の企業と地域活性のために活動すること

とした。

これらを通して、生徒に身につけさせたい力は、以下の4点である。

- (主体性)SDGsについて正しく理解し、粘り強く課題に取り組む行動力
- (探究性)SDGsの観点で地域の課題を発見し多面的に考察する力
- (協働性)他者と協働し成果を発信する表現力
- (社会性)地域の一員として持続可能な社会づくりに貢献しようとする意識

2. 主な実施内容と活動の様子

(1)SDGs学習

①授業計画

最初の主な活動である「SDGsについての理解を深めること」については、計5時間の授業計画を立てた。

	内容
1時間目	SDGsとは？(本校地域コーディネーターによる全体講演)
2時間目	クラスごとにSDGsを理解するためのグループワーク (講師:本校地域コーディネーター)
3時間目	カードゲーム「SDGs de 地方創生」の実施
4時間目	グループごとのポスター作成
5時間目	(2時間)

②カードゲーム「SDGs de 地方創生」

3時間目は4名の「SDGs de 地方創生」の公認ファシリテーターをお招きし、カードゲームを実施した。ゲームを通して、まちづくりにおけるSDGsの視点や協働の大切さなどを学んだ。



カードゲーム「SDGs de 地方創生」について(出典:SDGs de 地方創生HPより)

SDGs de 地方創生ゲームの参加者は最小で6、最大で16の各地域で活躍するプレイヤーにわかれて頂いて、それぞれの役割を演じていただきます。行政担当として4つの役割があり、まちで活動する市民として12の役割があります。

行政担当者には毎ターン予算が配られ、まちを良くすることをゴールとして提示されます。まちで活動する市民には、一次産業従事者や、まち工場の経営者、一市民など様々な役が与えられます。使える予算は限られています。代わりに普段の活動を通じて得られる人脈があります。

どのように活動し、どのようにまちに働きかけていくか。それはゲームに参加する参加者ひとりひとりに委ねられています。

SDGs de 地方創生ゲームではまちの状態は「人口」「経済」「環境」「暮らし」という4つの指標で表されます。何も具体的な対策をしないしていると、人口は徐々に減少をはじめます。

経済はまちの財政に影響を与え、まちに緑が少なかったり、暮らしやすいまちでなければ、様々な施策をしても十分な効果を発揮しません。

20年後も豊かに過ごせるまちとなるのか、それとも残念ながら消滅可能性が高い都市になるのか。それはゲームに参加したプレイヤーひとりひとりの行動によって千変万化いたします。

しかし、具体的にそれらの施策を実践したときにどのような効果が生じるのか、プレイヤーには明かされていません。まちに良い影響をもたらすのか、期待はずれにおわるのか、はたまた、まちにネガティブな影響をもたらしてしまうのか。。。自分の行動一つ一つがまちに与える影響を考えながらプレイして頂く必要があります。

また、まちの状況によっては、かつてはできなかったアクションができるようになった、そんなことが起こり得るように作成されています。

あなたの参加するまちは、前進をしているでしょうか？それとも衰退を続けているまちでしょうか？残された時間は限られています。

生徒は坂井地区版のポスターを作成

③ポスター作成

上記の「SDGs de 地方創生ゲーム」で用いたアクションのカードを、坂井地区が抱える問題点を意識しながら作成する活動を行った。以下は生徒が作成したポスター例である。



④ 中間報告会

7月19日に行われた中間報告会では、作成したポスターを用い、自分たちが考える坂井地区の課題とその解決策、および解決のために協働を依頼したい企業・団体について発表を行った。

【中間報告会 生徒発表テーマ一覧】

1組

班	発表内容	協働予定企業等
1	若者向けのまちづくり	坂井市役所、地元企業
2	赤ちゃんがはいはいできるきれいな町に	坂井市役所、清掃関連会社
3	子供あふれさす計画	地元幼稚園・保育所、坂井市役所
4	地元活性化で人を呼び込もう	坂井市役所、地元商店街
5	人と自然があふれる街へ	建築関連会社、坂井市役所
6	カーシェアリングシステム	タクシー会社、バス会社
7	竹田の森を守る～グランピング施設を作る～	旅行会社、観光開発会社

2組

班	発表内容	協働予定企業等
1	広めよう地元の魅力	JR西日本 地元企業
2	福井県の魅力発見ツアー	地元企業 旅行会社
3	すべてに優しい街	NPO法人
4	坂井市輝きフェスティバル	坂井市役所
5	Let's improve the transportation of Maruoka	JR西日本
6	丸岡城でお祭りを開催（イベント）	地元企業 坂井市役所
7	ゆりを広めよう	ゆりの里公園 丸岡城

3組

班	発表内容	協働予定企業等
1	坂井市に安心と安全を	市役所 消防署
2	セーフティーロード	自治体 坂井市道路整備課
3	高齢者の寝たきりを防止するために	市役所 健康運動指導士
4	かんぱんのあるまち	製造業 食品業 観光業
5	ゴミのない町づくり	ゴミ収集会社 市役所
6	高齢者の孤立化防止	介護施設 建設業
7	シニアサービス	バス会社
8	Clean up de Point up!!	IT企業 自治会

4組

班	発表内容	協働予定企業等
1	海を守ろう	漁業協同組合連合
2	地元の食材で地産地消	gcafe 地元農家
3	街灯増設計画	北陸電力 坂井市役所 三床商会 OKUTAKEグループ
4	こども食堂	カフェ（未定）
5	親子のための町づくり	NPO法人おっとふあ〜ざ〜
6	空き家Renovation	坂井市役所など公共団体



来場者からは「どのグループも着眼点はよい」、「地域に対する問題意識の持ち方が多様である」といったご意見がある一方で、「多くの人の意見を聞くことで、課題がもっと真に迫るものであるとよい」、「解決策について、具体性に欠ける」といったご意見もあった。

(2)地域活性化計画

7月の中間報告会を受けて、そこで考えた坂井地区活性化案を実現するために活動していくということが、本年度の次の主な活動である。ただ、活動内容のボリュームが大きいことなどから、年度当初のスケジュールを変更し、2学期初めより行うこととなった。

①授業計画

	時数	内容
第一次 (9月 ～10月初旬)	5	・中間報告会振り返り ・自分の進路について考える ・進路に応じたテーマ設定 クラスでの活動
第二次 (10月中旬 ～3月中旬)	17	・協働パートナー探し クラスを解いた講座での活動 ・協働パートナーへのアポ取り ・テーマに関する調査の実施(調査方法・内容の検討) ・調査結果の分析(課題の再設定) ・発表準備

②第一次活動

学年生徒104名のテーマは大きく6つの系統に分けることができ、10月中旬からの活動では、クラスを解いた全11講座に分かれての活動を行った。最終的に学年で64のテーマとなった。テーマについては「自分の進路希望分野と関連のあるもの」とし、その面から坂井地区の活性化案について計画している。

テーマの系統	講座数	生徒のテーマの例
まちづくり	2	・観光で勝負！～丸岡城を広めよう～ ・EV充電スタンドをもっと便利に！ ・シャッター街を賑やかに ・目指せ空き家ゼロ
スポーツ・健康・福祉	2	・笑顔を増やそう～歯をきれいにし、街を明るく～ ・丸岡ビジネスマネジメント ・不平等をなくそう～全ての子どもたちにとって過ごしやすい環境づくり～
食	1	・子ども達にもっと食について関心をもってもらうために ・福井の食材を全国へ ・知られていない食の宝を活かす
地域活性	3	・海をきれいにしよう！ ・働きやすい環境づくり ・宿坊でおもてなし ・アニメで地域活性化
IT・情報・ビジネス	1	・坂井市提供アプリ「歩こっさ」の内容追加 ・安心できる生活のために(災害時アプリHNK防災について) ・稼げるまちづくり～輝く未来のために～
少子高齢	2	・ペットの訪問ケアカット(高齢者宅へ) ・丸岡キッズニア ・子育てインターンシップ

③ 第二次活動

第二次の活動中、11月には3年生との引き継ぎ会(自分のテーマと似た3年生の生徒より活動の引き継ぎ)を設定し、テーマを引き継ぐ生徒は活動内容や進捗具合を聞き取り、引き継がない生徒も3年生から様々なアドバイスをもらった。また、同じ11月に坂井市議会の方々にもご協力頂き、講座毎にお一人ずつ議員の方をお招きし、坂井市での取り組みについて教えて頂いたり、テーマへのアドバイスを頂いたりした。



坂井の将来像披露
丸岡高生が市議に

坂井市の丸岡高で18日、地域活性化をテーマに市会議員と意見を交わす授業が行われた。生徒たちは将来の進路と関連付けたまちづくりの活性化策についてのアイデアを発表し、議員に助言を求めた。

同校は文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定校。2年生は10月から、まちづくりや健康福祉、食などを題材に、地域の企業や自治体と協働して課題解決策を探る学習に取り組んでいる。

この日は、市会の議会報告委員会や丸岡地域選出の議員ら11人が参加。少子高齢化がテーマのグループ

は、子育てに優しいまちづくりに向け、三国運動公園の遊具を充実させ、安心して遊べるよう整備する案や、インターンシップで子育てプログラムを取り入れる考えをまとめ、実現に向けて協力を得たい企業や団体候補も紹介した。

子ども向け職業体験「丸岡版キッズシア」を進めているグループに対し、議員は「未来ある子どもたちのために地元商店は協力してくれるだろう。対象年齢や人数を明確にし、具現化へ頑張ってもらいたい」とエールを送った。(山口暁永)

地域活性化策について市会議員と意見交換する丸岡高の生徒たち＝18日、坂井市の同校

福井新聞(2021,11,24)

活動の中で、生徒はまずテーマに関連する協働先(企業や自治体や研究機関、店舗等)を自分で見つけなければならない。そして、協働先に電話やメールで連絡をし、実際に取材を行ったり、アンケートを行ったりする。第二次の活動の中で生徒にとって最初の「壁」が、「協働先を探る・連絡をする」ということであったと思う。メールを送っても返信がない場合もちろんあり、企業に電話をかけるということ自体が生徒たちにとっては緊張することだった。

また、コロナによる影響で休校期間もあり、約束していた協働先と打ち合わせができないなど、なかなか思うように活動が進まないこともあった。2年生の活動のまとめとして予定していたグローバル成果報告会までも延期になり、様々な部分で、今年もコロナによる影響があった。そのような経緯を経て年度末に行った成果報告会については、以下の通りである。

(3) 成果報告会

生徒の発表時間は各グループ5分と設定した。7月の中間報告会の反省点として、提示資料の見にくさが指摘されたため、年度末の成果報告会では、それぞれのグループがスライドを作成し、それをプレゼン資料とした。

① 生徒発表内容

- 1: テーマ
- 2: テーマ設定の理由
- 3: 関連するSDGs
- 4: (先行事例について)
- 5: 協働パートナーについて(どこ? なんで?)
- 6: 予備調査(アンケート・聞き取り)について(内容と結果) → 再設定したテーマ
- 7: 進捗状況
- 8: 今後の見通し

② 発表で意識する観点

- A テーマが地域の課題を正確に捉えているか
- B 協働パートナーが適切か
- C テーマが自分の進路と関連付いているか
- D 今後の見通しがあるか(プランの実現可能性)
- E 発表方法が適切か、工夫があるか

生徒の作成スライド①



生徒の作成スライド②



64のグループを前半後半に分け、更に8会場に分かれてオンラインによる発表を行った。各会場ごとに、助言者の方にオンラインで参加していただき、発表後の質疑応答の時間で、それぞれのグループに対しご助言をいただいた。例えば、「丸岡町のゴミ拾い」がテーマのグループに対しては、「なぜゴミを拾おうと思ったのか?」「自分の進路とどのような関係があるか?」などの質問や、「福井にUターン者を増やそう」というテーマのグループに対しては、「福井の活性化のために、なぜUターン者を増やす必要があるのか?」「掘り下げていくと、有名企業に進出してもらうことや、外国人労働者を増やすことの方が地域活性化につながるかもしれない」といった鋭い指摘もあった。生徒にとっては気づかなかった着眼点でのご助言は今後活動を継続していく上で有意義なものになったのではないかと感じる。

【助言者一覧】

三田村彰 氏、木村優 氏（福井大学連合教職大学院）
 三上寛司 氏、小玉悠太郎 氏、中出陽介 氏
 （坂井市企画政策課）

山田舞林 氏（坂井市観光交流課）
 前田英邦 氏、岩田ちなみ 氏（坂井市地域振興課）
 北川遥菜 氏、西出有希 氏（坂井市社会福祉協議会）
 田辺寿之 氏（坂井市国際交流協会）
 鮫田洋和 氏（日本銀行福井事務所）
 加藤治亮 氏（福井財務事務局）
 佐藤山斗 氏（JICA北陸）
 田川裕大 氏（BEAU理事）



3. 成果と課題

(1) 成果

一番の成果としては、昨年度末に課題として残されていた、「地域にアクセスした後、そこから問題意識を共有したり、自ら課題を設定して自分事として考え実行したりする力を十分に伸ばせなかった」ということが今年度は達成できたということだ。生徒の多くは坂井地区に「若者が少ない」「観光客が少ない」「活気がない」などの問題点を挙げていたが、その原因をたどっていくと、自分の希望進路の分野と何らかの関係があることに気づく。「自分事」として課題を解決する方法やプランを考えることができた。

(2) 課題

一方、課題についてもいくつかある。まずは、活動自体を「持続可能な形」でできるよう、計画・実施・評価の面まで体制を整理する必要があるということだ。2 学年も今年度、先に述べたように当初予定より前倒して個人の活動を行った。また、講座に分かれると、当然担当する教員数も多くなるが、それゆえ教員間の意思疎通・認識統合の機会が少なく、マニュアルのない活動を行う苦労もあった。このような過去の実践や課題を踏まえ、今後はある程度活動の「計画・実施・評価」をマニュアル化・システム化する必要があると感じる。

また、生徒の活動の面からも課題を感じる。この活動は本来生徒の主体的な活動であるが、「やらされている感」を持つ生徒も一部で見受けられた。活動の冒頭で生徒に活動の目的をしっかりと確認する必要がある。協働パートナーの設定についても、そもそも協働パートナーとは何か、位置づけは何か、といったことや、生徒のテーマによっては協働パートナーが不要のケースもあるのではないかといったことも考える必要がある。

4. 今後の展望

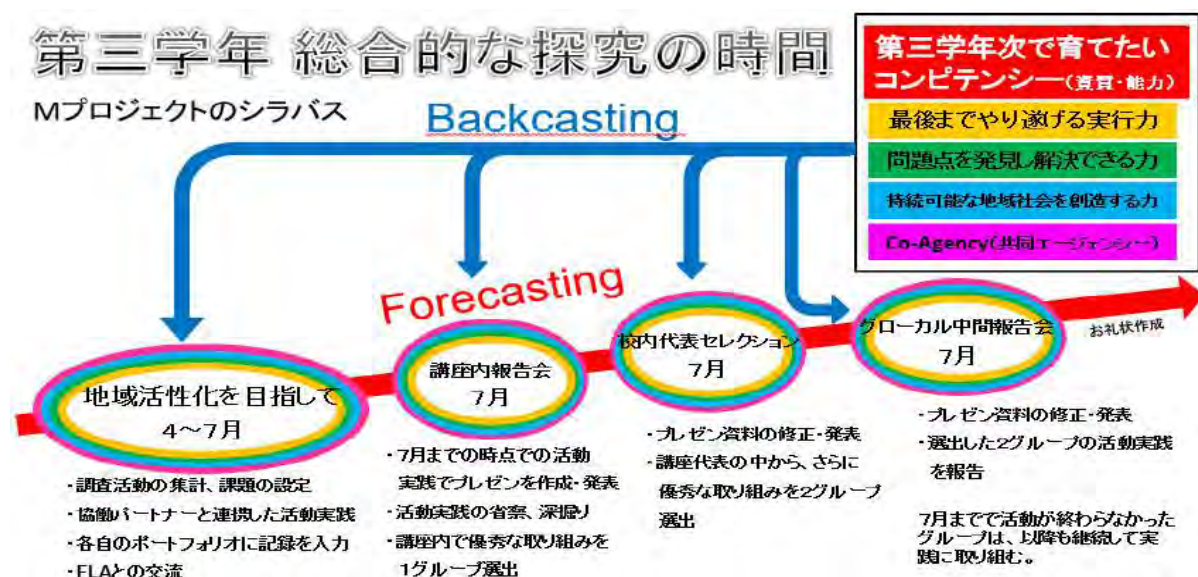
生徒については、来年度も引き続き個人活動を継続していくが、1 人でも多くの生徒にとって主体的に考える力が身についたり、進路実現に繋がったりするよう活動を運営していきたい。また、上述したように、誰が担当になっても対応できるよう、持続可能な形式に変形させていく必要がある。教員にとっては負担が少なく、生徒にとっては意味のある活動にしていきたい。

最後に、今年度の活動は地域や外部機関の多くの方々に関わって頂き成り立つことができた。この場をお借りして感謝申し上げたい。

第3学年 M-PROJECT

1. 本年度の M-PROJECT の視点や目標

3年生では、本事業で育成を目指す人材像「社会と関わりながら自分で考え、主体的に責任を持って社会を変えていけるグローバルリーダーの育成」および、1,2年次からの取り組みや生徒の実態を鑑みた上で、M-PROJECTで身につけさせたいコンピテンシーを考えた。そして昨年度のものから「Co-Agency(共同エージェンシー)」を継続し、新たに「最後までやり遂げる実行力」「問題点を発見し解決できる力」「持続可能な地域社会を創造する力」の3つを加えた4つのコンピテンシーの育成を目標に設定した。これらを育成するために、以下のような活動を実践した。



2. 主な実施内容のながれと生徒の様子

(1) 地域活性化を目指して

昨年度に引き続き、以下の二つを目標に実施した。

- 地域活性化をテーマに、地域の企業や官公庁と協働した課題解決型学習での多様な学びを通して、持続可能な社会をめざし、グローバルな視点で地域を担える生徒を育成する。
- 地域活性化の取り組みと自分の進路を重ね、進路実現にも資する活動とする。

① 指導体制について

学年会のメンバーも変わったことから、今年度はまず始める前に、似通ったテーマごとに講座を編成し、学年会の10名の教員が分担して各自1講座を担当するように指導体制を整えた。それに伴い、北校舎2Fの6教室(演習室B1、3-1、3-2、3-3、3-4、演習室B2)を使用教室とし、同じ教室を2講座で使うことで、2名の教員のどちらかが不在となった場合にも柔軟に対応できるようにした。

使用教室	担当教員	生徒数(グループ数)
演習室B1	宇城教諭	12(7)
3-1	小野田教諭	12(6)
	鈴木千教諭	11(7)
3-2	梶川教諭	14(6)
	小林教諭	11(5)
3-3	中村教諭	10(6)
	西岡教諭	11(6)
3-4	松田教諭	11(4)
	近藤教諭	13(5)
演習室B2	川端教諭	17(6)
	藤本(インターン生)	
		合計122(58)

②ポートフォリオについて

生徒が自身の取り組みを記録するために、また担当教員もそれをいつでも確認できるように、Google ドライブ内にグループごとのポートフォリオを作成した。この生徒グループのポートフォリオには、3学年会の教員がアクセスできるようにし、他講座の進捗状況も確認できるようにした。



③「みらい☆タイム」の運用と生徒の外出体制の整備

協働パートナーとの連携した活動を進めるにあたって、既存のカリキュラムの運用では生徒が相手先と時間を合わせることが難しいことが大きな障害となった。そのため、学年会で相談の上、今年度から実施された「みらい☆タイム」のうち水、金曜の7限をCFの時間に充て、尚且つ生徒がフレキシブルに外出できるような外出体制を整えた。また、生徒が外出する際には「取材依頼文」をもたせ、相手先へ趣旨を伝えるようにした。

＜外出体制＞

平日(月～金)の授業中に外出する場合は、生徒は「外出許可願」を記入、講座担当教員は「公欠願」を書いて、部活動と同様の手順で教務部と指導部へ「公欠願」を提出して、生徒の外出を認めることとした。また、金曜のみらいタイムと木曜のCFは「外出許可願」のみを記入させ提出させることで外出を認めることとした。

④福井ランゲージアカデミー(以下FLA)との交流

＜目的＞

- ・現在活動中もしくは活動しようと考えている「地域活性化の取り組み」をFLA 生徒へ紹介する。また、活動自体を見つめ直す機会とする。
- ・FLA 生徒から「文化・芸術・衣食住・宗教・問題など」を紹介してもらうことで、グローバルな視点を養い今後の取り組みに活かす。

＜参加人数＞ FLA 生徒22名(1グループ1名程度)

＜当日の流れ＞

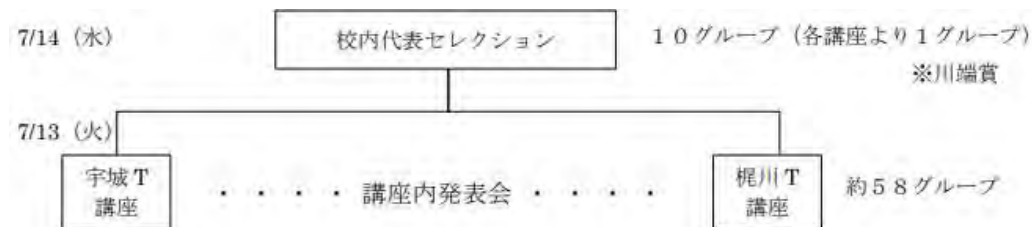
- ・互いに自己紹介
- ・丸高生徒の発表
- ・FLA 生徒の発表
- ・交流タイム




(2) 講座内報告会

< 目的 >

- ・これまで取り組んできた M-PROJECT を省察し、報告する。また、プレゼン資料作りや報告会を通して、更に自身の取り組みを深掘りする。
- ・各講座の中から優秀な実践を行ったグループを校内代表セレクションに選出する。

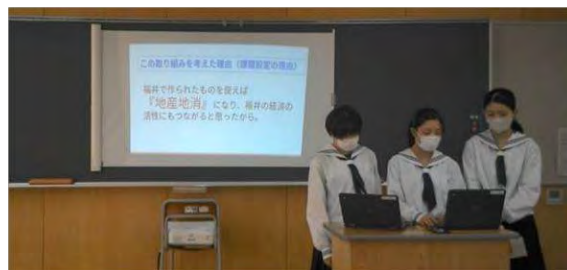


< 使用教室 >

演習室 B1(宇城教諭講座) 3-1(小野田教諭講座) 3-2(小林教諭講座) 3-3(西岡教諭講座)
3-4(松田教諭講座) 演習室 B2(川端教諭講座) 化学室(近藤教諭講座) 物理室(中村教諭講座)
LL室(鈴木教諭講座) 視聴覚室(梶川教諭講座)

< 当日の流れ >

- ・1グループ目の発表(7~8分)
 - ↳ 発表後、担当教員と他グループの生徒からのアドバイス、改善ポイントを指摘
 - ↳ 評価シート記入
 - ・2グループ目の発表(以降、繰り返し)
- ※ 講座担当の教員は次年度の参考になるように、タブレットで各グループの発表の様子を録画した。また、評価シートを集め、Googleドライブ内のスプレッドシートにて集計し、講座代表グループの決定・発表をした。



< 講座内報告会の結果 >

以下のテーマで発表した10グループが校内代表セレクションに選出された。

- ・食べ尽くそう丸岡の街～お得になくす食品ロス～
- ・昆虫を使った製品～昆虫で健康に～
- ・高校生のウェブパンフレットとVR制作～丸岡城を全国に～
- ・地域でリアルな職業体験を～丸岡キッザニア～
- ・丸岡のみんな元気にしてやるぞ
- ・商店街の活性化
- ・書道を通じた地域との触れ合い
- ・いつでも心の相談
- ・ウェブサイトで丸岡をPR
- ・Alien species

評価集計シート (講座内発表会) ☆ □ ☰

ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 データ ツール 拡張機能 ヘルプ 最終編集:202

100% ¥ % .0 .00 123▼ デフォルト▼ 10 B I G A

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	発表順	1		発表順	2		発表順	3	
2	回答者No	評価		回答者No	評価		回答者No	評価	
3	1	5		1	3		1	5	
4	2	5		2	5		2	5	
5	3	5		3	5		3	4	
6	4	4		4	3		4	4	
7	5	4		5	5		5	5	
8	6	5		6	3		6	4	
9	7	4		7	3		7	5	
10	8	4		8	3		8	5	
11	9			9	4		9		
12	10			10			10		
13	11			11			11		
14	12			12			12		
15	13			13			13		
16	14			14			14		
17	15			15			15		
18	16			16			16		
19	17			17			17		

+ ≡ 講座▼ 西岡T講座▼ 川端T講座▼ 近藤T講座▼ 中村T講座▼ 鈴木

<評価の観点>

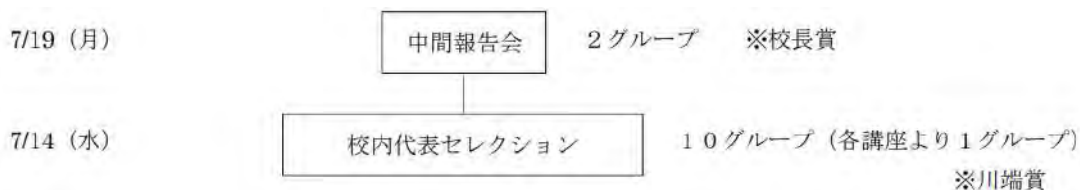
以下のような評価規準でプレゼンを評価した。また、これはプレゼン資料を作成する前に生徒に示してある。

		A	B	C	D
①	最後までやり遂げる実行力	「見通しA→実行A→振り返りR」を繰り返し、活動に取り組んでいる。	「見通しA→実行A→振り返りR」の流れで活動に取り組んでいる。	「見通しA→実行A」までの流れで活動に取り組んでいる。	実行までは進んでいないが「見通しA」を立てることはできている。
②	問題点を発見し解決できる力	地域が抱える問題点に対する課題が設定されており、協働パートナーと連携した活動が進んでいる。	地域が抱える問題点に対する課題が設定されており、協働パートナーと連携している。	地域が抱える問題点の背景を明らかにし、課題を設定している。	地域が抱える問題点を見出すことはできている。
③	持続可能な地域社会を創造する力	持続可能性を有し、地域活性化に資する新たな取り組みになっている。	地域活性化に資する新たな取り組みになっている。	地域活性化に資する取り組みになっている。	地域と繋がった取り組みになっている。
④	Co-Agency	協働パートナーと互いにWin-Winの関係で活動ができています。	協働パートナーと良好な関係で活動ができています。	協働パートナーに協力してもらって活動を進めています。	協働パートナーと繋がっている。

(3)校内代表セレクション

<目的>

各講座代表の計10グループから中間報告会で発表をする2グループを選出する。また、セレクションを通して、更に自身の取り組みを深掘りする。



<使用教室> 視聴覚室

<当日の流れ>

- ・事前指導、準備
- ・1グループ目の発表(7~8分)
 - ↳ 発表後、担当教員と他グループの生徒からのアドバイス、改善ポイントを指摘
 - ↳ 評価シート記入
- ・2グループ目の発表(以降、繰り返し)

※評価シートを集め、講座内報告会と同様にGoogleドライブ内のスプレッドシートにて集計し、校内代表の決定・発表をした。

<審査員>

- 3年学年会の先生 + 1,2年学年会の先生(希望者)
- + 管理職



<評価の観点>

以下の①～⑧に関して、4段階(4:良い 3:まあ良い 2:パツとしない 1:不十分)で評価した。

- ①テーマについて……聞き手を引き付けるものか。
- ②テーマ設定の理由……地域の問題を述べ、根拠が確かであるか。また、データがあるか。
- ③課題の設定……地域の問題との整合性があるか。
- ④課題設定の理由……地域の問題を改善することに確かに繋がっているものか。
- ⑤取り組み内容……協働パートナーと連携し、試行錯誤の様子が見られるか。また、単発の活動ではなく何度も繰り返し活動し、AARを回しているか。
- ⑥関連するSDGsについて……取り組んだことが、SDGsの要素を含んでいるか。
- ⑦持続可能な取り組みにするために……継続した取り組みにするためのアイデアがあるか。
- ⑧質疑応答について……正確に答えているか。論破されていないか。

<校内代表セレクションの結果>

以下のテーマで発表した2人が中間報告会での発表者に選出された。

- ・食べ尽くそう丸岡の街 ～お得になくす食品ロス～
- ・昆虫を使った製品 ～昆虫で健康に～

2名の生徒は、グローバル中間報告会に向けて7月15日(水)、16日(木)の午前中に、3年学年会の先生方の指導を受け、さらにプレゼン資料の改善や発表練習などを行った。

(4)グローバル中間報告会

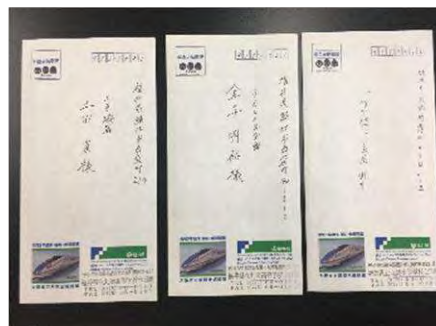
中間報告会では、校内代表セレクションで選出された2名が、全校生徒および来校者に向けて発表を行った。また、惜しくも校内代表セレクションには選ばれなかった8グループも午前中の準備の時間をいたいて、全校生徒に向けて発表を行った。



(5)お礼状とアンケートの送付

協働パートナーとしてお世話になった企業や官公庁の方々に、これまでの活動への協力に対する感謝の意味を込めて、お礼状を送付した。それに合わせ、次年度に向けてアンケート調査への協力を依頼した。

- ①活動終了グループ → お礼状とアンケートを郵送 or ポストIN
- ②活動継続グループ → 終了後、1か月以内に上記を実施



(6) グローカル成果報告会

3月16日に実施した成果報告会では、M-PROJECTについての「3年生とのトークセッション」を行い、オンラインで配信した。既に卒業した3年生5名に来校してもらい、「M-PROJECT で身についた力」や「進路実現にどのように生かしたか」などの1,2年生の質問に答えた。



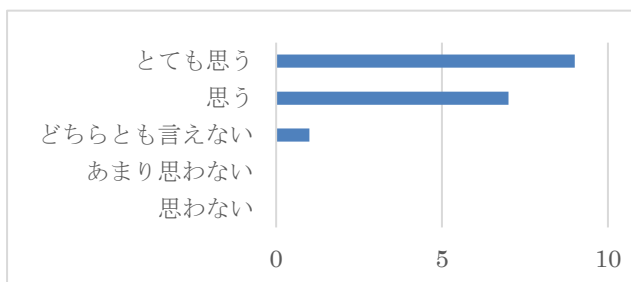
3. 協働パートナーへのアンケート結果集計

(1) アンケートの内容

1. 高校生が地域・企業等と連携した取り組みを行うことは、地域社会の活性化につながると思えますか。
 とても思う 思う どちらとも言えない あまり思わない 思わない
【理由】
2. 高校生と連携した取り組みを行うことは、貴台・貴殿にとってもプラスであったと思えますか。
 とても思う 思う どちらとも言えない あまり思わない 思わない
【理由】
3. 今回の探究活動で、昨年度冬から数えて高校生グループから何回相談等を受けましたか。Zoom 等の遠隔面談も含めて下さい。(電話等でのアポイントの連絡は含めません)
 1回 2回 3回 4回以上 わからない
4. 高校生と連携した取り組みを行う上で、活動上の困難と感じられたことを、選んで下さい。(複数回答可)
 活動期間(短い or 長い) 活動資金 目的や意図が不明確
 高校生の提案が未熟(具体的に:)
 高校生の意欲態度(具体的に:)
 貴台・貴殿の勤務上のご都合(内容:)
 その他()
5. 来年度も、本校生徒と連携した取り組みに関わってもよいと思えますか。
 とても思う 思う どちらとも言えない あまり思わない 思わない
【理由】
6. その他、本校へのご助言・ご要望等、ご自由をお願いします。

(2)集計結果

① 高校生が地域・企業等と連携した取り組みを行うことは、地域社会の活性化につながると感じますか。



「とても思う」の理由

- ・高校生自身も地域にどのような企業(大学)があるのかイメージしやすくなり、その学生が地域で活躍する基礎になると思う。
- ・今回の取り組みからそう感じました。
- ・地域社会を活性化し、変えていくのは、若い力だと思うから。
- ・高校生が地域資源を知り、見直し、活用して、まちづくりやビジネスを提案し、その取り組みを行政や地域で応援していくことが、地域社会の活性化につながると思う。

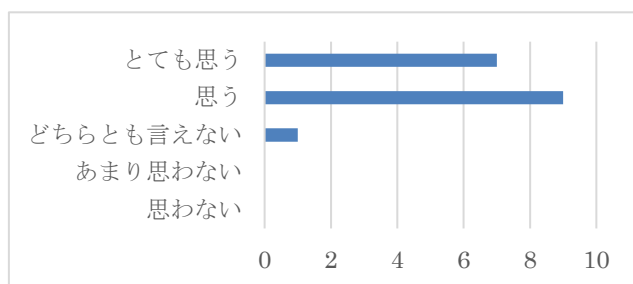
「思う」の理由

- ・「高校生」という元気で活力のある人材が、自分の地域で活動すること自体に意義があると思う。その高校生がもつ特徴を前面に活かせるような取り組みを企業等と連携して行い、笑顔や活力のあふれる地域を創生できると良い。
- ・地元地域のことを知ろうとする取り組みを通し、学生の県外流出にとっても効果が出る可能性を見出せるのではないかと思う。

「どちらとも言えない」の理由

- ・単発の活動では、地域社会の活性化につながるとは思えない。継続的な活動が必要になるかと思う。

② 高校生と連携した取り組みを行うことは、貴台・貴殿にとってもプラスであったと感じますか。



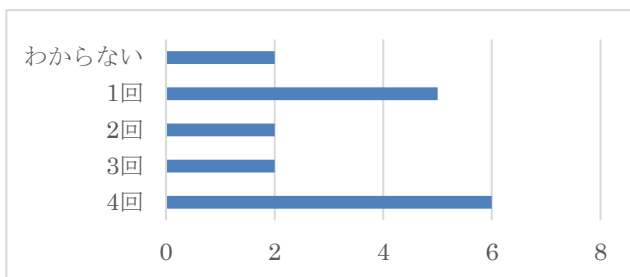
「とても思う」の理由

- ・本学生が、作業療法について大学生活を振り返り、学生自身の言葉で話していた。良い効果が得られると思う。また、作業療法の啓発活動として大変ありがたい。
- ・高校生目線の新鮮な意見を聞けました。
- ・高校生の若いパワーとしっかりとした考え方に感銘し、エネルギーをもらった。
- ・今回の交流をきっかけに、全校でよりSDGsに考え、伝え、活動していくようになった。
- ・高校生の若い世代の関心を行政課題と一緒に取り組むことができ、発想力の豊かさを改めて感じた。いただいたアイデアを関係部署に届けました。

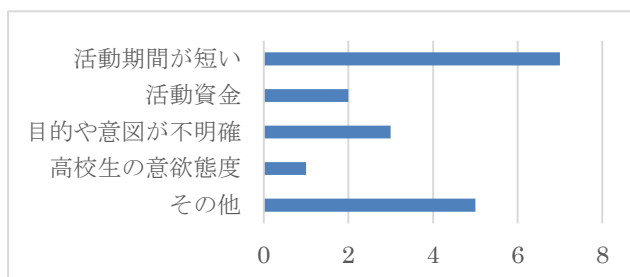
「思う」の理由

- ・動物愛護やボランティアという活動を、高校生など若い世代から参加していただくことにより、動物の適正飼育などについて正しい知識を共有することができ、さらに高校生から周りの人達に向けて発信してもらうことで、地域の動物愛護に対する意識の大きな向上につながると思う。
- ・高校生であれば、十分な地域防災の担い手になり得る。防災意識の啓発、高揚において連携した取り組みは大変重要だと考えます。
- ・高校生が福井の伝統工芸に興味を持ってくれたこと。
- ・園児が高校生と関わることを喜んでいたので。
- ・新しい視点や普段の企業活動では知りえない、気付きを得にくいことに対する情報収集や、客観的視点を得る機会になるため。

③ 今回の探究活動で、昨年度冬から数えて高校生グループから何回相談等を受けましたか。Zoom 等の遠隔面談も含めて下さい。(電話等でのアポイントの連絡は含めません)



④ 高校生と連携した取り組みを行う上で、活動上の困難と感じられたことを、選んで下さい。(複数回答可)



【活動期間が短い】ことへのご意見

- ・今回は一回の演習に参加して頂いたが、あと数回あればプラン、演習、振り返りまで参加できると思った。

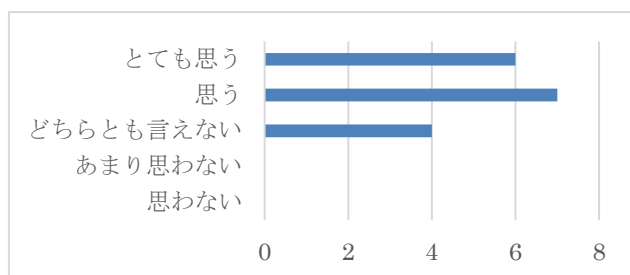
【その他】でのご意見

- ・平日の活動時間に制限があり、学校が終わってから本センターに来ることは困難(時間的、距離的な問題)。
- ・基本的にはとても良い取り組みだと思う。本校には、普通学校の高校生との交流に大きな抵抗を感じる生徒もあり、慎重な計画が必要。
- ・最終資料の確認がなかった。
- ・時間設定(授業等との調整)

【高校生の意欲態度】へのご意見

- ・メールでのやりとりでは、実態が伝わらない。

⑤ 来年度も、本校生徒と連携した取り組みに関わってもよいと思いますか。



【とても思う】の理由

- ・生徒も提案の課題に挑戦することで、発見や疑問がわく。行政もサポートをしなから連携を図っていきたい。
- ・本学生、貴学生ともにメリットがあると思う。
- ・学生と関わることで、社内にとっても新しい刺激にもなるため。

⑥ その他、本校へのご助言・ご要望等

- ・生徒さんたちはとても前向きに熱心に取り組まれ、本校生徒たちも有意義な時間を過ごすことができました。
- ・発表の機会を見ることができると良い(高校生の目線で学び得た内容についてお互いに意見交換や相互理解を深める機会としたい)。
- ・今回の取り組みは最後に発表があると聞いておりましたが、そちらの写真や動画があると、次回からの参考になるので提供についてご検討願います。
- ・目的が学校側と学生側とで若干認識がズレていた点があったと思います。学生側と打ち合わせする際の方向性を整理するのに時間が十分に取れなかったため、事前にすり合わせをしていただけると良かったのではないかと思います。
- ・生徒の発想力やコミュニケーション力、地域との関りを通した総合的な探究の時間 M-PROJECT。学校は、子ども・生徒たちの学びの場のみならず、地域コミュニティの核となる場となるよう、今後とも活動を期待しています。
- ・イベント等の意欲的な行動は、本当に頼もしかったです。

4. 生徒の振り返り

<1組生徒>

物事を色々な視点から見ること、コミュニケーションの取り方、事前準備、順序立てて考えることの大切さなど、社会に出ていくうえで、大切なことをたくさん経験して、学べた。M-PROJECT の活動を最後までやり遂げることで、とても達成感を感じ、自信にもつながりました。

<2組生徒>

私は M-PROJECT を通して地域の人などと協働して活動することの難しさと自ら行動していくことの大切さを学びました。他にも小学生の子どもと取り組んだ活動だったため、小さい子どもとの関わり方なども学ぶことができたと思います。また、活動して終わりではなく、友人同士での発表をしたり、後輩へ自分たちが行った活動について説明したりする活動も行ったので、上手く言葉で説明するのもとても大変だと感じました。3年間を通して、M-PROJECT から多くのものを得ることができたのでとても良かったです。

<3組生徒>

3年間 CF に取り組んできて、1年生は町を知る活動、2年生は自分の町をグローバルな視点で考える活動を行ってきました。その経験があったからこそ、M-PROJECT は上手いと思ったと思います。他のグループとは違う視点から PROJECT をやっていくので、誰にも相談できない中、行ってきたので不安もありましたが、協働パートナーとコミュ

ニケーションをしっかりとれたので、成功で終わりました。自分は自己行動力や人を引っ張っていく力、自分の考えをしっかりと伝える力が身についたと考えています。大人と関わっていくことですべきことを学ぶことができました。

<4組生徒>

私は M-PROJECT の活動を通して、地域の課題を自ら探し、実際に地元の人たちと意見交換をしたことで、丸岡をより良いものにしていきたいという思いがでてきました。また、自分の考えを持つことができ、人前で発表する力をつけることができました。自分の将来の夢と重ねて、M-PROJECT を進めていくことができたので、進路のときにも M-PROJECT をしていてよかったなと思いました。

5. 担当者の振り返り

今年度を振り返ると、M-PROJECT は正しく「令和の日本型学校教育」を体現するような学習活動になっていたのではないかと考える。「令和の日本型学校教育」は簡単に言うと、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ「主体的・対話的で深い学び」を実現するというものである。

<「令和版の日本型学校教育」の体現につながったと考える授業改善とカリキュラムマネジメント>

- ・生徒各自が自身の進路および興味・関心のある内容でテーマを設定して活動を進めることで、生徒の興味・関心等に応じ、一人ひとりに即した活動や課題に取り組むことができるようにした。
- ・生徒グループを10講座に分け、タブレットとGoogleドライブのポートフォリオを活用することで、生徒が自らの進捗の状況を把握し、主体的に活動を調整することができるよう促すとともに、担当教員はこれらを活用して生徒の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえた支援を行うことができるようにした。
- ・「みらい☆タイム」の運用と外出体制の整備をすることで、生徒が自分の活動の進捗状況や必要に応じて、フレキシブルに外出できるようにした。
- ・地域の企業や官公庁に協働パートナーとして活動にご協力いただくことで、地域社会の様々な場面でのリアルな体験や対話等を通じて学びを深められるようにした。
- ・生徒が実際にアクションを起こすところまでを目標とすることで、様々な社会的な変化や困難と遭遇したり、乗り越えなければならない課題と向き合ったりする場面を創り出すことができた。
- ・協働パートナーと連絡を取り合っ活動を進める中で、相手を尊重し、持続可能な社会の創り手として必要な資質・能力を育成することができた。
- ・FLAとの交流、校内代表セレクション、グローバル中間報告会といった発表の機会を設けることによって、生徒が内化したことを外化させる言語活動を充実させることができた。

<M-PROJECT と進路に関して>

今年度は、M-PROJECT の活動を生かして、学校推薦型選抜や総合型選抜で国公立大学へ12名が合格することができた。私立大学でも多くの生徒が M-PROJECT の活動を生かして合格を勝ち取っている。また、自己推薦書や志望理由書では M-PROJECT での取り組みをアピールすることで、他校生徒との差別化につながった。面接や口頭試問でも、実体験をもとに説得力のある内容を話すことができ、M-PROJECT を通して得られた知識やプレゼン力を生かして、臨機応変に自信を持って受け答えすることができた。これらのことから、今年度の M-PROJECT は、例年以上に進路実現に資する学習活動とすることができたのではないかと考える。まだまだ国公立大学への合格者数は多くはないが、今後 M-PROJECT の活動をブラッシュアップしてより良いものとすることができれば、生徒の進路実現をさらに後押しする学習活動になると思う。

最後に、M-PROJECT の活動を進めるにあたり、3年学年会の先生方には様々な面でご協力をいただいた。多くの外部の方にも生徒と協働していただき、育てていただいた。この場を借りて深く御礼申し上げたい。

ワールドユースミーティング(WYM)2021

1. ねらい

本校のESS部は2015年よりワールドユースミーティング(WYM)事業に参加し、アジアを中心とした国々の高校や大学と交流を続けている。このWYMとは、1999年より毎年実施されている英語協働プレゼンテーション大会であり、「世界各国とICT活用を通してプレゼンテーションの協働制作に取り組み、グローバル人材を育成する」ことをねらいとしている。

2. 実践報告

(1) 概要

①開催日:2021年8月5日(木) 13:00~17:00、8月6日(金)10:00~15:30※オンライン開催

②テーマ:“Regeneration and sustainability”

～持続可能な社会へ Switch On! ゴール実現に向けての私たちの責任～

③参加者:45チーム

(参加国:日本、カンボジア、フィリピン、マレーシア、韓国、中国、台湾、インドネシア、ベトナム)

(2) 内容

①丸岡高校ESS部のテーマ:“gender equality”の達成に向けて

～呼称(〇〇君、〇〇さん)の違いが生み出す高校生の意識調査と提案～

②事前学習とテーマ設定

・本校在籍の地域協働コーディネーターから、各国のSDGs達成に向けての課題と取り組みを聞く。

・先行事例を調べ、課題を絞る。

・身近な課題に関連づけ、テーマを設定する。

③事前アンケート(グーグルフォーム)実施と取り組みの提案

対象:本校3年生60名

結果:「男子生徒を君づけで呼ぶことに抵抗がない」と回答

した女子生徒が過半数を越えた。「君づけが良い」と回答

した男子生徒は一人もおらず、「さん付けで呼ばれる

方が良い」、「さん付けで呼ばれることに抵抗がない」、

「どちらでも構わない」と回答した男子生徒を合計する

と、100%だった。

提案:性別を問わず、名前の後に「さん」を付けて呼ぶ。

④動画作成・配信

⑤当日の質疑応答、意見交換、文化交流



日本のgender equalityが低いことを説明している様子



性別を問わず「さん」付けで呼ぶことを提案している様子

3. 工夫した点と成果があったと思われる点

(1) グローバルな視点から学ぶ

本校に週4日常駐している、坂井市の地域協働コーディネーターとともに、世界で起きている諸問題の実例を取り上げてSDGsについて学ぶ事前学習を行った。地域協働コーディネーターは元JICA北陸の職員であり、海外滞在期間が長く経験豊富であることから、海外事情を日本と比較しながら分かりやすく説明していただき、生徒の疑問にも答えていただいた。この事前学習の後、生徒は先行事例を調べる活動に取り組み、身近な課題解決につながるテーマ設定をした。

(2) ローカルな課題解決に取り組むことで、課題を自分事にする

本校は、令和4年度入学生から制服を一新し、LGBTQ にも配慮されたものとなることから、身近な gender equality の達成をテーマに設定した。また校内では、現時点で呼称が「〇〇さん」に統一されていないことから、日本の呼称の由来、呼称の違いが生み出す高校生の意識を調査し、高校生活の中ですぐにも実践可能な呼称の統一を提案することにした。日常生活の身近なテーマを扱うことで、自分事として課題に向き合うことができた。

4. うまくいかなかった点と理由

例年は、本校とパートナーシップ協定を結んでいる台湾の福誠高級中学とチームを組み、ワールドユースミーティングに出場している。今回は、相手校が直前に参加できなくなり、その結果本校が単独で発表することになった。進捗状況の報告や、完成動画を共有するといった交流は継続していたが、一つのテーマに基づいて協働活動するという目標を達成することができなかった。

5. 生徒の感想

(1) 生徒の事後レポートより

右は部員が活動後に書いたレポートである。

「部員間で話し合いをしてアイデアを出し、アクションプランを考え出した」、「学校生活の中から、SDGs5番目の目標『ジェンダー平等の実現』に向けて、自分たちにもできるプランを考えたい」、「発表の際には、声の抑揚、身振り、内容が伝わる話し方を意識した」、「オンラインでのやり取りの難しさを実感したが、そのためにも準備の大切さがわかった」ことを挙げている。

(2) “DIE”について

レポート内で部員が取り上げている”DIE”とは、

Diversity(さまざまな違いを認める)

Inclusiveness(一人の例外もなく含め受け入れる)

Equalities(平等にものを考える)

を指している。この”DIE”が今大会開催の意義となっていることを知った部員が、改めてこの考え方の大切さを認識している。

For All Contingencies

～thinking about what we can do～

氏名 白川悠大 学校名 福井県立丸岡高等学校

Introduction : We participated in WYM 2021 without our partner school this year. Our challenge was tough, but we talked a lot with the members to build up the ideas and reach our action plan. Now let me review our activities. We followed the DIE and gave a presentation on "gender equality"

1. Reviews of WYM

1.1 The concept of DIE

In this WYM, we were able to make presentations and ask questions in accordance with the DIEs. This time, we focused on the fifth goal of the SDGs, gender equality, which is particularly relevant in Japan, and used school life as an example to raise gender issues that are still deeply rooted. Then, we thought about actions we could take.



1.2 Technical accidents

However, a technical accident occurred during the performance, and the sound did not come in. Thanks to the subtitles on the video, we were able to avoid the worst-case scenario of the information not being conveyed, but we were worried that it would affect the outcome. However, since we were able to win the award, I felt that our efforts were not in vain. From this, I learned the importance of being prepared for anything that might happen online.

1.3 Future prospects

In my presentation, I was conscious of my voice intonation, movement, and ease of conveying information, but I felt that my pronunciation was still not perfect, so I would like to work on improving my pronunciation.

Though there are still some difficulties with online interactions, it has made us connect each other wherever we are in the world. We should make good use of those interactions to broaden our ideas by sharing opinions from now on.

生徒の事後レポート

(レポート内の写真) 英語による質疑応答の様子

6. 3年間の実践を通しての変容

この3年間は毎年、参加形態が変化した。令和元年度は、台湾の生徒が来日し、丸岡でのホームステイを経験し、協働で発表に臨んだ。令和2年度はオンライン上での協働による発表、そして今年度は単独の発表となった。形態はさまざまであるが、どんな方法でも工夫次第で交流が可能であること、互いを認め合い意見交換することの大切さは変わらないことを部員自身が経験した3年間だった。

7. 今後の課題と展望

相手校と普段から連絡を取り、互いに学校の事情に配慮して、さらに交流を進めていきたい。

丸岡城サミット

1. ねらい

- ① 地域内の小・中・高校が共通課題への取り組みを通して一体感を強め、地域社会の一員としての自覚を高める。
- ② 学習の視点や方法、探究活動の見通しなど、校種を越えた学び合いにより、「ふるさと地域学習」の充実を図る。
- ③ 地域の歴史・文化に対する興味関心を高め、地域文化を継承する意識を高める。
- ④ 坂井市、まちづくり協議会、市民の会などの各団体と小・中・高校が連携し、官・民・学が一体となって地域人材の育成を図ろうとする気運を醸成する。

2. 実践報告

福井県内の小学4年生は、社会科副読本「きょうどの生活」で、郷土の伝統・文化について学んでいる。令和2年改訂版以降、坂井市から「丸岡城」と「みに祭り」がとり上げられ、「丸岡城」では、荒田太吉氏、坂井市文化課、丸岡城天守を国宝にする市民の会、などの取り組みが紹介されている。また、中学校では、学年ごとに総合学習(探究)のテーマを設定し、3年間の探究活動に取り組むなかで、「丸岡城」がテーマとなることも多い。

地域内の小中高校が、「丸岡城」という共通の題材を通じた「ふるさと地域学習」に取り組んでいることから、校種を越えたグローバル学習を目指したのが、「丸岡城サミット」である。

(1) 第1回(令和元年度)の取り組み

期日:平成31年3月6日(水) 13時～ 於平章小学校生活科室

参加校:平章小学校(5年生)、丸岡南中学校(1年生)、丸岡高校(ESS、美術部)

参加者:坂井市教育委員会、福井県教育委員会、丸岡城のまちまちづくり協議会、

丸岡城天守国宝にする市民の会、丸岡観光ボランティア協会



- ① 平章小学校の5年生は、5月、9月に、丸岡城天守や歴史民俗資料館等を調査取材した結果をクイズ形式で発表。
- ② 丸岡南中学校1年生は、丸岡城の観光振興案を、彦根城と比較する形で提案。
- ③ 丸岡高校美術部は、商店のシャッター描画、ESSは英語で丸岡城をガイドした体験について発表。

(2) 第2回(令和2年度)の取り組み

期日:令和3年3月10日(水) 13時～

メイン会場:丸岡高校視聴覚室 リモート会場、平章小学校、長畝小学校、高椋小学校

参加校:平章小学校(5年生)、長畝小学校(5年生)、高椋小学校(4年生)、丸岡高校(地域協働部、放送部)

参加者:丸岡城のまちまちづくり協議会、丸岡城天守を国宝にする市民の会、坂井市観光産業課、FUT福井城郭研究所顧問吉田純一氏



- ① 平章小学校5年生は、7月、9月の丸岡城探究活動の成果を発表。
- ② 長畝小学校5年生は、日向神楽、豊原について取材した成果を劇の形式で発表。
- ③ 高椋小学校は、「狭間」など城郭構造について調査した結果の発表。
- ④ 丸岡高校放送部は、丸岡城麓の商業施設「城小屋マルコ」について取材した内容を発表。

(3) 第3回(令和3年度)の取り組み

期日:令和4年3月16日(水) 13時30分～ 於丸岡高校視聴覚室

参加校:平章小学校(5年生)、長畝小学校(5年生)、丸岡中学校(合唱部・2年生)、丸岡南中学校(1年生)、丸岡高校(地域協働部)

参加者:丸岡城のまちまちづくり協議会、丸岡城天守を国宝にする市民の会、福井県教育総合研究所前所長牧野行治氏



- ① 平章小学校5年生は、7月、9月の丸岡城探究活動の成果を発表。
- ② 長畝小学校4年生は、丸岡城と長畝地区の歴史について劇の形式で発表。
- ③ 丸岡中学校は、プロジェクションマッピングと合唱のコラボ、丸岡城のデザイン画を発表。
- ④ 丸岡南中学校1年生は、丸岡城に関する総合探究活動の成果を発表。
- ⑤ 丸岡高校地域協働部は、昨年横浜で開催された「お城 EXPO2021」のプレゼンの様子を発表。

丸高レヅジ

1. 丸高レヅジとは

本校生徒・教職員が中学校の生徒や先生方、市民の皆さまとともに、さまざまなトピックについて学び合う公開講座である。昨年度に引き続き、今年度もコロナウイルス感染拡大防止の観点から多くの回を無観客で実施し、講座の様子を収録して、さかいケーブルテレビの行政チャンネル「スポットライトさかい」にて放送していただいた。

収録した番組は右のQRコードよりご覧いただけます。是非ご覧ください。



2. 実践報告

第1回「SDGs ～坂井から世界を考える～」

- ①放送日 令和3年7月1日～7月14日
- ②内容
 - ・SDGs 概要説明
 - ・「ふくいSDGsパートナー」事業の紹介
 - ・県内企業のSDGsの取り組み事例紹介
 - ・丸岡高校のSDGsの取り組み事例紹介
- ③出演者 柳川 千尋 氏（福井県未来戦略課）
寺尾 忍 氏（テラオライテック株式会社社長）
高柴 直哉 氏（坂井市企画政策課）
小林 直彦 氏（丸岡高校教諭）
竹本 沙織 氏（丸岡高校地域協働コーディネーター）
丸岡高校3年生 3名



第2回「DX デジタルトランスフォーメーション」

- ①放送日 令和3年7月15日～7月31日
- ②内容
 - ・DXの概要説明
 - ・福井県産業情報センターの紹介
 - ・SEのお仕事紹介
- ③出演者 大木 哲郎 氏（ふくい産業支援センター 新産業支援部次長 DX推進チームリーダー）
上坂 哲教 氏（Loccio 代表）
島田 芳秀 氏（丸岡高校校長）
竹本 沙織 氏（丸岡高校地域協働コーディネーター）
丸岡高校3年生 1名



第3回「落語で笑顔の花が咲く ～春江大好きプロジェクト～」

- ①放送日 令和3年10月1日～10月14日
- ②内容
 - ・春江大好きプロジェクトの紹介
 - ・落語披露
- ③出演者 木川 直美 氏（春江大好きプロジェクト 代表）
坂井市内中学生3名と大人2名が落語を披露

第4回「これからの高校教育」

- ①放送日 令和3年11月1日～11月14日
- ②内容
 - ・丸岡高校令和4年度からの新コースの紹介
 - ・福井県の高校魅力化の取り組み紹介
 - ・BEAUの取り組み紹介
- ③出演者
 - 玉井 久統 氏（福井県高校教育課）
 - 田川 裕大 氏（一般社団法人BEAU理事）
 - 島田 芳秀 氏（丸岡高校校長）
 - 林田 匡平 氏（丸岡高校教諭）
 - 竹本 沙織 氏（丸岡高校地域協働コーディネーター）



第5回「多文化共生のまちづくり」

- ①放送日 令和3年12月1日～12月14日
- ②内容
 - ・多文化共生概論
 - ・福井県国際経済課の取り組み紹介
 - ・福井県国際交流協会の取り組み紹介
- ③出演者
 - 阿部 一郎 氏（自治体国際化推進アドバイザー）
 - 本田幸太郎 氏（福井県国際経済課）
 - 飯田 隼人 氏（福井県国際交流協会）
 - 伊東 マリア セルシア 氏（外国人コミュニティーリーダー）
 - 中村 哲夫 氏（インターナショナルさかい顧問）
 - 竹本 沙織 氏（丸岡高校地域協働コーディネーター）



第6回「JICA～海外ボランティア～」

- ①開催日 令和3年12月12日
(坂井市国際交流協会の設立記念講演会として実施)
- ②内容
 - ・海外でのボランティア経験談
- ③講師
 - 立崎安寿香 氏（インドネシア派遣/農業）
 - 田中 隆文 氏（モルディブ派遣/教育）
 - 矢尾 克彦 氏（ミクロネシア派遣/教育）
 - 小林 義文 氏（マレーシア派遣/医療）
 - 竹本 沙織 氏（丸岡高校地域協働コーディネーター）



第7回「微遍路でみつけた坂井の魅力」

- ①放送日 令和4年1月1日～1月14日
- ②内容
 - ・微遍路で見つけた坂井の魅力
 - ・坂井市職員による坂井市の魅力紹介
- ③出演者
 - 田中 佑典 氏（生活芸人 微遍路提唱者）
 - 高嶋貴世衣 氏（坂井市企画政策課）
 - 山田 舞林 氏（坂井市観光交流課）
 - 竹本 沙織 氏（丸岡高校地域協働コーディネーター）



第8回「竹田Tキャンプ」

- ①放送日 令和4年2月1日～2月14日
- ②内 容 ・竹田Tキャンプの紹介
・Tキャンプのプロジェクトの紹介
- ③出演者 竹内作左エ門 氏（坂井市集落支援員）
片木 孝治 氏（総務省地域力創造アドバイザー）
西馬 晋也 氏（Tキャンプコーディネーター）
中出 陽介 氏（坂井市企画政策課）
Tキャンプ参加大学生 複数名
竹本 沙織 氏（丸岡高校地域協働コーディネーター）



第9回「移住者さんいらっしゃーい」

- ①放送日 令和4年3月15日～3月31日
- ②内 容 ・移住して見つけた「坂井市の魅力」
・坂井市の移住サポート制度
- ③出演者 小玉 悠太郎 氏（坂井市企画政策課）
県外から坂井市への移住者4名
竹本 沙織 氏（丸岡高校地域協働コーディネーター）



第10回「JICA～海外ボランティア～」

- ①放送日 令和4年4月15日～4月30日
- ②内 容 ・海外でのボランティア経験談
- ③講 師 立崎安寿香 氏（インドネシア派遣/農業）
田中 隆文 氏（モルディブ派遣/教育）
矢尾 克彦 氏（ミクロネシア派遣/教育）
小林 義文 氏（マレーシア派遣/医療）
佐藤 山斗 氏（JICA 北陸福井デスク）
竹本 沙織 氏（丸岡高校地域協働コーディネーター）



第11回「ドイツ人僧侶から見た日本文化」

- ①放送日 令和4年5月15日～5月31日
- ②内 容 ・外国人から見た日本文化の魅力
・多文化共生社会に向けて必要なこと
- ③講 師 ネルケ 無方 氏（ドイツ人曹洞宗僧侶）



3. 次年度に向けて

今年度の丸高カレッジは坂井市秘書広報課（行政チャンネル）やさかいケーブルテレビ（番組編集）、丸岡高校地域協働コーディネーターの竹本沙織氏（シナリオ作成、司会進行）等、様々な方のお力添えのもと11回開催することができ、感謝の念に堪えない。

来年度も校外の方と連携しながら中高生や市民の方々に有意義な市民講座を開催したい。

地域活性化派遣プロジェクト

1. ねらい

- ・地域で開催されている行事やイベント等に積極的に参加し、地域の方々との交流を深める。
- ・地域の方々と協働しながら行事を盛り上げ、地域の発展に貢献し、シビックプライドを醸成する。

2. 実践報告

(1) 丸岡バスターミナル交流センターでのイベント運営補助

①「はたらくるま大集合！ & 星に願いをスイーツフェア」

丸岡バスターミナル交流センターおよび丸岡支所駐車場にて6月19日(土)に開催されたイベントである。坂井市と丸岡城天守を国宝にする市民の会が企画した。本校生徒の有志が参加し、受付での検温やブース運営の補助を行った。また、部活動では地域協働部、吹奏楽部、放送部が参加し、イベントを盛り上げていた。



受付での検温の様子



吹奏楽部による発表

イベントのチラシ

②「バスタへGO!」

11月20日(土)丸岡バスターミナル交流センターで開催されたイベントに、地域協働部の1年生が参加した。受付での対応や、日頃のそば打ちを習っている丸岡そば振興協議会の先生方による新そば販売を手伝った。生徒は先生方とコミュニケーションを図りながら、調理から接客対応まで柔軟に対応していた。コロナ禍が落ち着き始め、当日は多くの来場者で賑わっており、生徒も交流を楽しんでいた。



(2) 福井国際フェスティバル 2021

10月24日(日)福井県国際交流会館で開催されたイベントに参加し、受付での検温やSDGs クイズラリーの補助を行った。当イベントの運営には、福井大学国際地域学部の学生も関わっており、生徒は大学生との協働により、イベントを盛り上げていた。また、県内の在住外国人によるブース出展もあり、生徒は、各国の文化について、クイズやゲーム体験を通して楽しく学び、交流を深めていた。



検温をする生徒



SDGs クイズラリーの様子



在住外国人と交流する様子

(3) 第1回丸岡鎧着初式

丸岡城天守を国宝にする市民の会が主催し、丸岡で初めての鎧着初め式が開催された。着初め式は、人生の節目を迎えた人々の壮健を祝い、参加者の無病息災と延命長寿を祈願する神事である。本校からは、地域協働部、剣道部の生徒が参加し、市民の会を始めとする地域の方々とともに、武士団一行として行事に参加し、大変貴重な機会となった。



鎧着初式の様子

3. 工夫した点と成果があったと思われる点

今年度は、地域からのボランティア依頼を地域協働コーディネーターが窓口となり受け付けた。全校生徒へ一斉に募集の案内を行い、ボランティアに関心ある生徒は誰でも参加することが出来た。また、関心のありそうな生徒には個別に声をかけて参加を促した。

例年依頼をいただいている、丸岡バスターミナル交流センターの方からは、「生徒が主体的に取り組んでいて助かった」、「シフトを組んだが、生徒同士の引継ぎも自分たちで考えて実行できていて素晴らしい」などの感謝のお言葉をいただくこともあり、生徒がボランティアの経験を重ねてきた成果が伺えた。

また、外部連携先である、坂井市社会福祉協議会まるおか支部を通して、丸岡町の福祉団体からのボランティア依頼をいただくこともあったので、今後も地域協働の場を広げていきたいと思う。

4. 生徒の感想

- ・バスタでのそば販売のイベントでは、普段あまり関わることのない世代の方たちと一緒に作業をすることで、私たちに無い考え方を教えてもらいました。これからも地域の人たちから、たくさんのことを学びたいです。
- ・私は将来、通訳を目指しています。福井国際フェスティバルに参加して、外国人との異文化交流を通して、これからはもっと積極的にコミュニケーションをしていきたいと思うようになりました。

5. 今後の課題

ボランティアの校内周知を行うも、参加希望者が十分に集められないこともあった。情報発信の主体を地域協働コーディネーターが担っているが、行事によっては生徒会などを通じて校内に周知を行うと効果があると考ええる。

また、イベントの直前に本校への依頼をいただくこともあり、スケジュール調整が上手くできないこともあった。日頃から、生徒を巻き込んだイベント企画なども行っていけると、生徒も依頼元もビジョンを共有しながら、イベントの運営に関わることができて良いと思う。

丸岡南中学校との中高連携企画

1. ねらい

丸岡南中学校の卒業生として、後輩と語ることによって母校との交流を深め、丸岡高校での学校生活や学びについて知ってもらい、お互いの連携を深める。

2. 実践報告

(1)「ふるさと地域学習」の支援(9月28日実施)

この交流は、丸岡南中学校の1年生に対してふるさと地域学習の授業支援を行う、NPO 法人「まちづくりカレッジ Sakai」から、地域協働コーディネーターを通して協力依頼があったものである。福井県義務教育課主催「ふるさと福井 CM コンテスト」への応募に向けて、フィールドワークを行う母校の後輩に対して、自分が行った地元企業への取材体験談を伝え、今後の参考としてもらった。

① 事前指導(9/24(金)放課後)

- ・参加生徒を集め、「まちづくりカレッジ Sakai」石森則子理事長から企画概要の説明をいただいた。
- ・1年次の総合的な探究の時間に行った、地元企業への取材活動の振り返りを、地域協働コーディネーターとともにに行った。



事前指導の様子

② 丸岡南中学校訪問

〈日 時〉 令和3年9月28日(火) 14:25～15:15

〈参加者〉 丸岡南中学校 1年生112名
本校生徒 2年生14名

〈会の流れ〉

- ・本校生が6クラスに分かれ、企業への取材体験談について話をする。
- ・その後、中学生からの質問に答える。

〈質問例〉

- ・取材する上で気を付けたこと、事前に準備しておく良いことなど
- ・取材をして楽しかったこと、大変だったこと、やりがいなど



〈活動の様子および生徒の感想〉

【高校生の感想】

- ・中学1年生に分かりやすいように伝えることや質問に答えることが難しかったけど、たくさんメモをしてくれて、話を聞いてよかったという感想を聞き、達成感があった。これからの活動で私達の話を参考にしてもらえたらうれしい。

【中学生の感想】

- ・僕らが知らない発見や驚きがたくさんあり、とても勉強になりました。また南中にきてほしいです。10月に行く取材が楽しみになりました！
- ・高校生のように、地域の魅力や名物、特産品を見つけていきたい。
- ・自分達が取材に行く前に色々な聞き方や話し方を学べて良かった。優しく質問に答えてくれたり、話をよく聞いてくれたりしてありがとうございました。



(2)「丸高生と語る会(オンライン)」(2月9日実施)

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オンラインでの開催となった。母校の後輩に対して、自分が今学んでいることや卒業後の進路、夢についての話をすることで、自分の進路選択の一助にもなった。

〈日 時〉 令和4年2月9日(水) 5限目

〈参加者〉 丸岡南中学校 2年生108名
本校生徒 2年生13名、3年生2名

〈会の流れ〉

- ・本校生が一人ずつ高校での活動や生活について話をする。
- ・その後、中学生からの質問に答える。

〈質問例〉

- ・高校生活で頑張ったこと、頑張っていること、高校卒業後の進路や夢。
- ・高校の魅力、高校選択のために知っておくとよいことや注意するとよいことなど。

〈活動の様子および中学生の感想〉

「丸高生と語る会」

朝倉先輩、橋本先輩、吉川先輩、神木先輩

先日の「丸高生と語る会」では大変お世話になり、ありがとうございました。
私が先輩方からの話で学んだことは、中学生の時よりも、勉強が
軽いか、部活は色々な部が増えたり、行事は新たな仲間と
楽しめる、何事も倍となって高校生活を送ることになるという
ことです。先輩方から話を聞く前は、高校に対して不安が
いっぱいでしたが、今では高校生活を送れることが、楽しみ
ではありません。今回は、本当にありがとうございました。



「丸高生と語る会」

表先輩、中村先輩、東先輩、鷺見先輩

先日の「丸高生と語る会」では大変お世話になり、ありがとうございました。
私が先輩方のお話で印象に残っていることは、授業で、地元の大人の人と一緒に交流できるということです。地元の人と交流することで
いい経験になると思うので、丸高に行きたいと思いました。また、
自分はサッカーをやっているので、大変だと思いましたが、行ってみたい
と思いました。丸高について、いふことは教えてくださってありが
たうございました。



地域コーディネーターとの協議会

1. ねらい

地域との連携事業を円滑に推進することを目的として、地域の代表としてコーディネーターを委嘱している。構成メンバーは、行政、企業、地域、学校の4分野からそれぞれ1名、合計4名で構成されている。その地域コーディネーターとの協議会を実施するねらいは、以下の通りである。

- (1) 学校と地域の連携事業を振り返り、改善点について協議する。
- (2) 学校や地域の課題を共有し、設定したテーマについて意見交換する。

2. 実践報告

(1) 概要

①日時:2021年11月15日(月)15:50~16:50

会場:丸岡高校会議室

②参加者:坪川義彦氏(あわら坂井ふるさと創造協議会・福井銀行丸岡支店長)

中出陽介氏(坂井市役所総合政策部企画政策課主査)

竹吉睦氏(丸岡高校教諭・丸岡城天守を国宝にする市民の会)

西出智一氏(ロータリークラブ) ※当日ご欠席のため、事前にいただいたご意見を紹介
後期生徒会執行部 丸岡高校2年生 4名

島田校長、野尻教頭、門前教諭(生徒会担当)

竹本沙織氏(丸岡高校地域協働コーディネーター)

鈴木教諭(グローバル事務局、進行)

(2) 内容とご意見

①令和3年度前期の取り組みについて

- ・地域での活動を通して何を目標しているのか、情宣活動が必要。
- ・M-PROJECTについて、生徒の調べるプロセスに課題が残る。連携先へ連絡を取る前の段階で、生徒のフォロー(理論武装、説得力)が必要。
- ・課題の設定、エビデンスの必要性を感じた。やり方を教えるべき。
- ・教員にエネルギーがかかり過ぎ。
- ・竹本地域協働コーディネーターのお陰で整理されてきている。

②今後の取り組みについて(生徒会活動報告)

- ・生徒会よりアンケート結果の報告---ルール見直し70%、頭髪について80%以上
- ・制服での下校はなぜ必要なのか、議論すればよい。

③意見交換

◎どうしたら地域の活動に丸高生がもっと関わることができるか

- ・地域ごとに、どんな活動が何の目的でされているのかを調べる。そうすることによりアプローチする方法や自分達に何が出来るかが見えてくるのではないか。
- ・教員ではなく、生徒会から生徒に地域ボランティア参加を呼びかけてはどうか。

◎丸高生の活動を地域の方に知ってもらう効果的な方法

- ・M-PROJECTで調べた事を元に現場に出向いてPR活動を行う。また生徒達と地域住民や地元小学生とテーマを決めて意見交換会やディスカッションを開催してお互いを知り、信頼を築く事も大切。
- ・通信やHP管理をする広報部が必要。他校の取り組みを参考に。

◎地域が丸高生に期待すること

- ・若い世代の目線で地域防災・防犯・観光での活性化(外貨を得る等)に関わって頂き、積極的に活動して欲しい。
- ・地域には卒業生が多い。お子さんに入学してもらえるように。
- ・なぜその活動をするのか、生徒は腑に落ちているのか。やらされ感はないのか。地域の人はその活動のために時間を割いている。問題解決の目的はどこにあるのか。好きな課題から始めたらよい。
- ・丸高の特徴は何か。距離の近さか。「丸高に行きたい、丸岡に住みたい」と思えるものは何か。
- ・一緒に活動した地域の人たちに報告して欲しい。地域からの信頼につながる。活動の精査も必要。
- ・意見を求めて協議したら、まずはどんな事でもいいから行動を起こして欲しい。机上の空論では何も変わらない。行動したことを元に皆で話し合って改善し、また行動することが大事。校則を見直すのであれば、その結果をぜひ発信してほしい。

3. 工夫した点と成果があったと思われる点

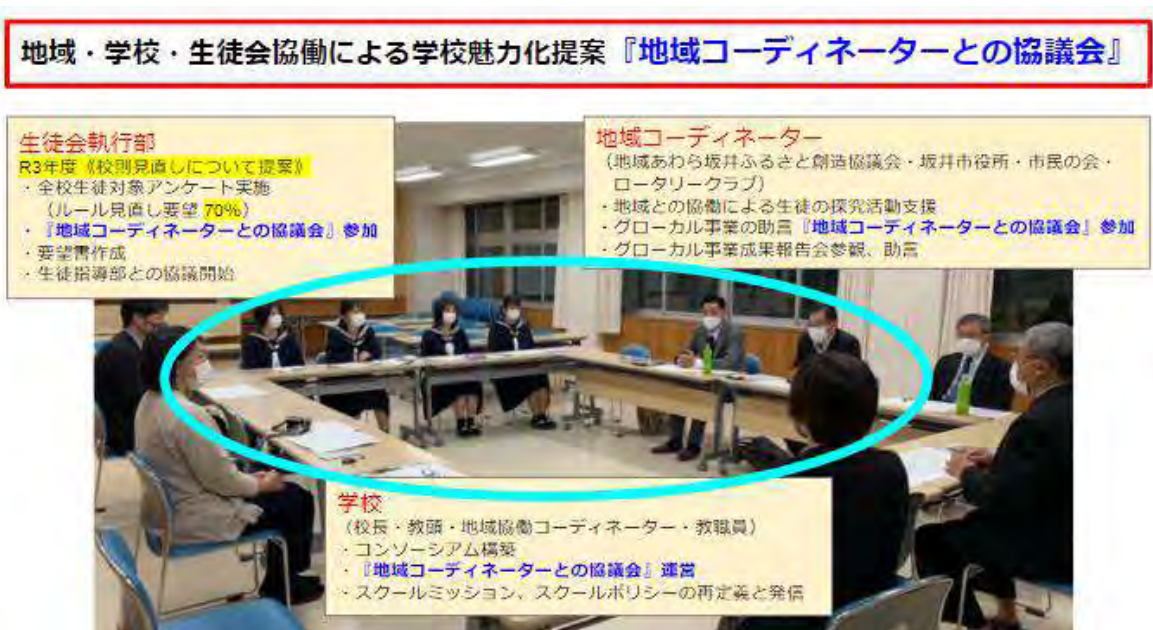
令和2年度の協議会は、参加者は地域コーディネーターと教職員であった。地域コーディネーターから、生徒の姿が見えないという指摘をいただき、今年度は生徒が参加する形で実施した。

4. 生徒の感想

参加した生徒会メンバーは緊張していたが、協議会が終了すると、興奮気味に「地域の方々が、自分達以上に丸岡高校のことを考えてくださっていることを知り、とても嬉しくなった。」「このような会議に次回も参加し、意見交換したい」と感想を述べていた。

5. 今後の課題

協議会は年1回の開催だが、協議会という形式にこだわらず、意見交換の場を模索していきたい。生徒の成果報告会などで来校していただける機会に、地域コーディネーターと語る時間を確保することで、さらに新鮮なご意見をいただけることが期待できる。



11月15日協議会の様子

グローバルスタディ英語

1. ねらい

【主体性】グローバルな視点に立ち、物事と自身との関わりについて考え、“Agency”(主体的、責任を持って行動する力)を発揮する

【探究性】テーマを深く掘り下げ、身近なことや世の中で起きている事例と結びつけて考える

【協働性】他者と意見交換しながら、目標達成に向けて議論を深め合う

2. 実践報告

(1) 授業の概要(AL型の課題研究形式の授業、週1時間、2年特進文系クラス)

① 授業形式 ----- 学期ごとにテーマ設定

(ア)テーマ理解、調査 (イ)意見交換、課題研究

(ウ)発表(google スライド使用) (エ)振り返り

② 評価方法 ----- 中間、期末考査は実施しない

(ア)ルーブリックに基づくパフォーマンス評価 (イ)提出レポート

③ 台湾の高校生との交流

----- 福誠高級中學の生徒との意見交換、発表、振り返りを実施

(2) スケジュール

＜当初の案＞

学期	テーマ
1 学期	台湾と日本の文化比較
2 学期	学校のウェルビーイング
3 学期	自身の進路と社会貢献(SDGs)



＜変更後＞

学期	テーマ
1 学期	台湾と日本の文化比較
2 学期	台湾と日本の SDGs への取り組み
3 学期	国際地域学習・企業訪問(SDGs)

コロナ禍による休校、台湾との交流回数の増加等により、予定を変更した。

(3) 福誠高級中學(台湾)の生徒との協働学習＜1～2学期＞

Google Meet を用いた、異文化理解、新型コロナウイルスに関する諸問題についての協働学習を実施した。

1 学期： 2021(令和3)年 5月～ 6月 4回実施

2 学期： 2021(令和3)年10月～12月 4回実施

① 内容

- ・台湾と日本の比較(スポーツ、食生活、pop カルチャー)
- ・SDGs target8 に対する各国(台湾・日本)自治体の対応

② 工夫した点

- ・教員間で事前に日を設けてビデオ会議(meet)接続確認
- ・接続トラブルに備え、スライドを事前に送受信

③ うまいかなかった点

- ・相手校とのスケジュール調整、スピーカーのトラブル対応



(4) 地域との協働による国際地域学習<3学期>

① 目的

- ・国内外で SDGs に取り組む企業の取り組みや、福井県および坂井市の国際化の現状、地域における多文化共生推進の活動について知る。
- ・SDGs の達成や多文化共生社会の実現に向けて、どのように取り組んでいくか、自分の進路と関連させて考える。
- ・自分達の身近な先輩の生き方を学び、キャリアデザインの参考とする。



本校卒業生による授業の様子

② 学習内容

日付	内容	講師
1/27(木)	・テラオライテック(株)訪問に向けた事前学習 丸高カレッジ「SDGs」視聴、質問を考える	
2/10(木)	・青年海外協力隊(マレーシア/理学療法士)の体験談の紹介	小林 義文氏(卒業生)
2/24(木)	・福井県の国際化の現状・多文化共生推進の取り組みを学ぶ	福井県国際交流協会 飯田 隼人氏(卒業生)
3/3(木)	・坂井市の国際化の現状・地域での取り組みを学ぶ	坂井市国際交流協会 田辺 寿之氏
3/22(火)	・テラオライテック(株)のカンボジア・越前市での取り組みを学ぶ ・社員の方とのディスカッション(SDGs と自分の進路をどう結びつけて考えるか、将来働きたい企業像など) ※2/14(月)企業訪問が中止となったため本校にて開催	テラオライテック(株) 会長 寺尾忍氏 社員の方数名

3. 今後の課題と展望

スケジュール変更により、3学期のテーマを十分扱うことができず、海外で SDGs 達成に取り組んでいる企業訪問のみとなってしまった。しかし、2学期のルーブリック自己評価後、3学期にパフォーマンス再挑戦の時間を確保したことで、主体的な学びにつながったと考える。台湾の生徒との交流は生徒にとって英語でメッセージを発信する大きな動機付けになっており、今後も協働学習を継続していきたい。

今後の課題は、①テーマ設定(社会と生徒をつなぐテーマ、総合的な探究の時間やグローバルスタディ社会との連携、台湾との連携)②時間の確保(「なぜ?」を突き詰める時間(探究)・客観的データ収集・英語プレゼン準備)③英語を話す必然性の確保(台湾とのオンライン交流他、地元留学生との交流等)である。

グローバルスタディ社会

1. ねらい

- ① 世界(地球)規模で考える視点をもって、地域社会の特色や特性を活かしながら、課題解決を図る力を育てる。
- ② 世界(地球)規模で考える力、地域社会の特色や特性を調査し理解する力、解決の方策を総合的に判断する力、他者と情報を共有し学び合う力、課題解決の方策を適切に伝える力を育成する。

2. 実践報告

(1) 前年度の取り組みと課題

① 前年度の取り組み

「共につくる私たちの未来 SDGsから「持続可能な社会の作り手」への一歩を」(JICA地球ひろば)というテキストをもとに、グローバル(海外)な問題に取り組む「課題A」と、ローカル(地域)な問題に取り組む「課題B」に分け学習した。「課題A」について探究した成果を発表した後、「課題A」に関連する地域(日本)の問題＝「課題B」に取り組む、探究した成果をレポートにまとめた。

② 前年度の成果と課題

探究活動を通して、全体的に a. プレゼンテーション能力の向上、b. レポートを書く力の向上、c. SDGsに関する知識の習得という成果が見られた。「課題A」と「課題B」が、多面的、複層的に関連しているため、グローバルな課題とローカルな課題を分けて探究することは困難であることを、体験的に理解する貴重な取り組みであったと言える。

(2) 今年度の取り組み

前年度の活動を踏まえ、今年度は、SDGsの目標ごとに、グローバルとローカルを一体化させ、グローバルな問題として扱うこととした。また、SDGsを理解したり思考を深めたりするうえで必要な、地歴公民の基礎知識を確認すること、他者との対話的な学習の機会を設けること、進学試験に対応する面接力、小論文力の育成を視野に入れることの3点を柱として今年度の取り組みを行った。

① SDGsを理解するために必要な知識の確認(地歴公民的アプローチ)

◎目標1「貧困をなくそう」……「絶対的貧困と相対的貧困の違い」の確認

目標2「飢餓をゼロに」……「食料自給率の現状と課題」の確認

◎セネガルについて、JICAの一員としてセネガルで活動経験のある本校教員から、写真や動画を交えて、セネガルの生活の様子について講義を受ける。



セネガルにおけるJICA活動を紹介

◎ホンジュラス、キリバス、フィジー、ラオス、カンボジア、ミャンマー、などJICAのテキストで紹介された国々の地理的位置、国内情勢、日本との関係などについて、地理を専門とする教員から講義を受ける。

②他者との対話的学習

◎坂井高校とのオンライン交流(9月) …… タイに関するSDGs 学習の成果をオンラインで交換した。

※タイのバーンガオ高校との交流は、タイにおけるコロナ感染状況悪化のため中止になった。

◎福井大学留学生との交流(12月) …… 福井大学留学生が生徒の各グループに入り、探究してきたSDGsについて意見を交換した。



坂井高校とのオンライン交流

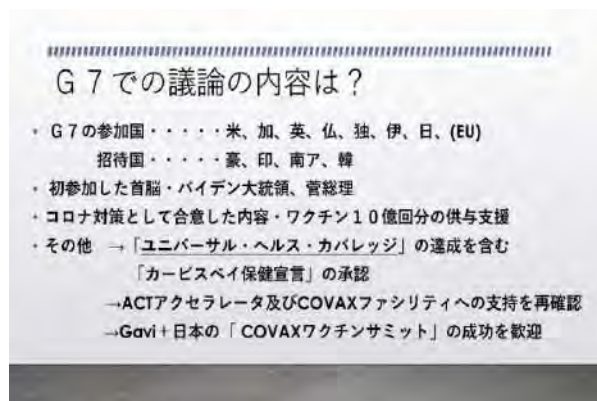


福井大学留学生との交流

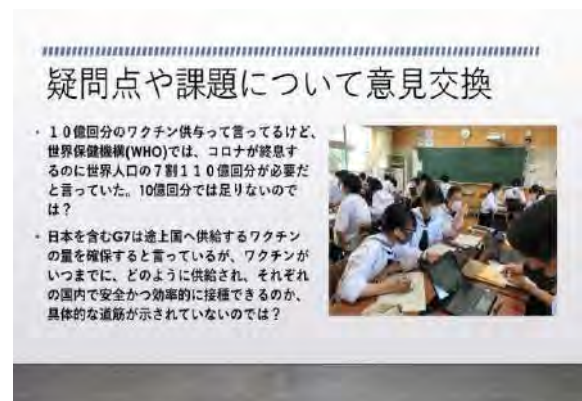
③進学対策

◎SDGsはなぜ必要か。「持続可能な開発」とは何か。17の目標は相互にどう関わっているのか、などについて自分の言葉で説明する。

◎SDGsに関する探究活動の成果をパワーポイントにまとめる。



G7コーンウォールサミットのまとめ



G7コミュニケに対する意見交換

3. 成果と課題

12月に実施した福井大学留学生との交流において、生徒は、SDGs に関する自分の探究活動の成果を自分の言葉で述べ、留学生と意見交換することができ、留学生からも高く評価された。社会的な思考判断力の基礎となる地歴公民での知識の習得、確認の成果と考えている。また、対話的な活動は思考を深めるうえで大変有効であったが、コロナ禍での機会の確保について見通しが必要である。

ESS「多文化共生社会に向けての取り組み」

1. ねらい

- 【主体性】グローバルな視点に立ち、地域課題を設定することができる
- 【協働性】さまざまな価値観や多様性を受容し、行動することができる
- 【社会性】活動を通して、社会参画の意識を高めることができる

2. 実践報告

(1)『称念寺』紹介動画英語版の制作

① 目的: 観光案内から地域活性化へ

NHK大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公、明智光秀のゆかりの地として有名な称念寺の英語版ガイド映像制作によって、外国人観光客に地域の歴史の素晴らしさを伝え、地域活性化に貢献する。

② 活動時期と内容

- 2月 地域の方との交流を通じて、称念寺の英語版ガイド映像がないことを知り、学校や私物の機材を揃えて称念寺で撮影、動画編集開始
- 3～4月 動画編集終了、ナレーション付け、映像の確認と調整
- 5月 動画完成、住職に再取材、手直し
- 6月 住職他、まちづくり協議会の方々に完成動画を披露して意見収集、手直して完成



ALTの先生に出演していただき動画撮影



完成動画の視聴、チェック中



まちづくり協議会の方に完成動画を披露

(2) 福祉サービス情報パンフレット英語版の制作

① 目的: 誰もが安心して暮らせる町に

坂井市の福祉サービスを掲載したパンフレットの英語版を作成することで、地域に住む外国籍の方々にも福祉サービスの情報を分かりやすく提供し、住みやすいまちづくりに貢献する。

② 活動時期と内容

- 5月 坂井市に外国籍の住民が増えていること、福祉パンフレットに英語版がないことを知り、制作開始
- 6月 社会福祉協議会、坂井市市民福祉課の方に完成パンフレットを披露して意見収集、手直しの後、市役所の市民福祉課の窓口に備え付けていただく



福祉サービスパンフレット日本語版



分かりやすさを重視して作成した英語版



坂井市市民福祉課の方と意見交換

(3)高校生ボランティアアワード 2021 参加(主催:風に立つライオン基金)

予選会:2021年7月30日(土)、本大会:2021年8月17日(水) ※いずれもオンライン開催

事前に活動紹介ポスターと動画を提出し、「紹介動画」と「福祉情報パンフレット」制作について発表した。



予選会では部員が自宅から参加した



予選会で質問に答える部員の様子



本大会に参加する様子

3. 工夫した点と成果があったと思われる点

(1)ターゲットの設定～ユニバーサルデザインの観点から～

いずれの活動も、地域の方々との交流がきっかけで始めた活動だった。制作過程からご意見をいただき、完成した作品を改めて監修していただいた。特に称念寺紹介動画については、ターゲット設定を地域の方とすり合わせることができたことは大きい。部員は外国人観光客を意識して制作していたが、日本の人々にも楽しんでもらえるよう日本語字幕をつけて欲しい、という要望をいただき、作品に反映させた。

(2)ことばの翻訳＝自国文化の理解

「ことばを翻訳する」ということは、「異文化理解」だけでなく「自国文化の理解」も必要である。生徒は、日本独特の文化(紹介動画)や地域のルール(福祉情報パンフレット)を、まず自分が理解し、文化のとらえ直して分かりやすく翻訳することの大切さを学んだ。地域の方との交流から、自国文化に対する理解の甘さに気づくこともできた。またターゲットに応じて、必要な情報を取捨選択することを学んだ。



ボランティアアワードに提出したポスター

4. うまうまかなかった点と理由

文化に対する畏敬の念をどのように表現するかということ、またそれを記録として残すことはとても難しい。紹介動画での作法や振る舞いは、だれの目にも理想的な振る舞いでなければならないことを指摘された。例えばお辞儀の作法については、外国人観光客に限らず日本人であっても完璧に振る舞うことはなかなかできないものだが、ガイドである以上、理想的な形が求められる。歴史文化を記録することの責任の重さを実感した。

5. 生徒の感想～多文化共生社会に求められるもの～

「今回の動画は外国人観光客をターゲットにしたが、住んでいる場所、性別、人種、障がいの有無に関係なく、誰にでも楽しんでもらえるよう、字幕や音声の言語を工夫したい」、「社会福祉協議会より、英語を母国語としない外国人にも分かるものを、という助言をいただいた。英語版パンフレットだけでなく、『やさしい日本語版』の制作等、利用者目線の活動をしたい」という、ユニバーサルデザインを意識した感想が中心だった。

6. 今後の課題と展望

地域活性化につながる情報発信の方法が課題である。福井県内の観光地に置いていただく、地域と連携して動画のリンク先を見つける等、発信方法を模索したい。

地域協働部



フェイスブックで随時活動報告中 →

1. ねらい

(1) 地域振興に資する人材の育成

(2) まちづくりプランを通して「企画立案」「コミュニケーション能力」「実践力」の育成

丸岡高校地域協働部は手芸・食物部とJRC部が統合し2019年に誕生した新しい部活動である。以前の部の伝統を引き継ぎ、週に1回そば打ちを行い、昨年度は全国高校生そば打ち選手権にも出場している。丸岡城のふもとにあるカフェ「城小屋マルコ」で提供されている丸岡産そば粉を使った新名物「石垣ポーロ」は部員と地域の方で共同開発した新商品である。丸岡の歴史を演劇にして発表したり、地元で観光案内のボランティアをしたりと丸岡のことをもっと好きになってもらうことを目標に活動してきた。

昨年度から引き続き「mPlan(マイまちづくりプラン)」と題して、丸岡を盛り上げるため部員一人一人が考えたまちづくりプランを実践している。

2. 実践報告

(1) 生徒のまちづくりプラン実践例

①「名物食堂の味を復活」プラン

「おもいで食堂」と題して、11年前に閉店した地元の名物食堂の懐かしい味を復活させた企画。実施に向け、キッチンを使わせてくれるお店に営業許可を取ったり、チケットを作成したりと準備に奔走した。人気だったソースかつ丼と卵かつ丼を復活させるため、部員が食堂の元店主のもとで修行をし、令和3年3月27日に開催し、地元の元常連客で賑わった。



②「商店街活性化」プラン

地元の商店街のレストランを取材し、坂井市内外でテレビ放送して地元での消費に結びつける企画。このプランは地域協働部コーディネーターで広告代理店勤務の方のサポートを受けて11月に放送。取材先の選定から自分たちで行い、グルメレポートの様子も県内で放送された。



③「オリジナルスイーツ開発」プラン

地元カフェとコラボしてオリジナルパウンドケーキを制作・販売した企画。コシヒカリ生みの親、故石墨慶一郎の出身地である地元丸岡での企画のため地元産の米粉にこだわったパウンドケーキを考案し販売した。



(2) 地域の方や行政の方との協働

① 丸岡周遊アプリ「きゃっチャリ」

丸岡の名所をめぐるレンタサイクルの旅。専用アプリ「きゃっチャリ」内の観光スポット動画では地域協働部員が武将や町娘として観光情報を発信している。丸岡城や菩提寺などに設置してある“かかし”をアプリ内カメラで撮影すると動画が流れてスタンプが集まり、スタンプラリーを達成するとオリジナルグッズと交換できる。



【Androidの方はこちら】



【iPhoneの方はこちら】



② お城 EXPO2021 で丸岡城を PR

丸岡城天守を国宝にする市民の会や坂井市、福井市観光協会等と連携して出店した今年度のお城 EXPO。地域協働部員もブースでの丸岡城 PR やステージ発表を行った。会場のパシフィコ横浜には多くのお城ファンが訪れた。部活動で行った丸岡城での取り組みを紹介したステージ発表の様子は右の QR コードより。



③ 鎧着初式

今年度丸岡で初めて斎行された「鎧着初式」に剣道部の部員と一緒に参加。昨年からの部活動でも市民の方のご指導のもと鎧制作を行っている。城下町を軍行し、國神社にて斎行された着初式は厳かな雰囲気であった。



④ 地域協働ファーム

学校の敷地内で丸岡在来種の蕎麦を栽培し収穫した。そば粉になった状態しか見たことのなかった部員たちであったが、種まきから収穫までを自分たちで行うよい経験となった。指導して下さったのは丸岡そば振興協議会で地元丸岡の農家の方である。これからもそば打ちや地元丸岡産の蕎麦の PR 活動に力をいれたい。



(3) 高校生がまちづくりに参画することの意義

部員の興味・関心は様々で、企画内容も多様である。地元のお祭りについて企画したい部員もいれば、送迎アプリを普及させたいと考える部員もいた。教員だけでは助言・伴走が難しいプランもあったが、地元のまちづくり団体や地域活性化を学ぶ大学生、行政の方々等の協力を得られたため、多種多様なプランが実現している。多くの校外の方にもご協力いただき、学校教育の範疇にとどまらず社会教育の場の創造ができたことを喜ばしく感じるとともに、共に生徒を育ててくださった方々に改めて感謝申し上げたい。

美術イラスト部

1. ねらい

- (1) 地域と協力した活動を通して、生活の中にある美術と社会とのかかわりを見つけ出し、地域活動にアートを活用する方法や可能性を探る
- (2) 地域と協力した活動を通して、地域の活動に対する理解を深め、地域の活性化や振興に貢献する態度を養う

例年、地域から依頼や案内を受けて、いろいろな活動に取り組んでいる。今年度取り組んだ主な活動は、和洋菓子おさやのシャッターアートの制作と第16回丸岡古城マラソンポスターデザイン原画案の制作、第16回坂井市民文化祭丸岡地区展示会への出品である。他にも依頼が来ている活動があったが、今年度は計画するところまではできなかった。本校のオープンスクールポスターの原画制作や文化祭の展示作品の制作、秋の福井県高等学校総合文化祭の出品作品の制作など、年間を通していろいろな活動があるため、制作時間の確保が難しいことが理由である。

2. 実践報告

(1) 地域から依頼を受けた活動

① 和洋菓子おさやのシャッターアートの制作

和洋菓子おさやのシャッターアートの制作は、「丸岡城天守を国宝にする市民の会」から依頼を受けた活動で、福井市内に移転するため2019年に閉店した老舗和菓子店「おさや」が提供したシャッターに絵を描いている。シャッターは、縦横2.7メートルの大きさのものが3つある。制作中の絵は、真ん中に五角形の内堀が特徴的な丸岡城下の絵図、左右に本校サッカー部、剣道部、新体操部の活動風景を描いている。背景を黄色く塗ることで絵を際出せるように工夫しながら、資料を参考にして取り組んでいる。3年生の部員は、「早く完成した作品を見てもらいたい」「少しでも地域のにぎわいに貢献できたら」という思いで2020年12月から取り組んできたが、県内の新型コロナウイルスの感染拡大や夏休み期間中に猛暑日が多くあったことなどによって、制作が思うように進まなかった。現在、今年度末の完成を目指している。また、この活動は、2021年6月1日から7月11日に福井県児童科学館1階において開催された展示会「SDGs持続可能な開発目標クイズボード」の中で本校の取り組みのひとつとして紹介された。



② 第16回丸岡古城マラソンポスターデザイン原画案の制作

第16回丸岡古城マラソンポスターデザイン原画案の制作は、坂井市古城マラソン実行委員会から依頼を受け、第16回古城マラソンを広報するためのポスターデザインの原画を制作する活動で、部員が制作した原画案を11月末に提出した。

現時点では、実際に広報用のポスターとして採用されるかどうかはわかっていないが、丸岡城を背景にすがすがしい姿で走る女性を配し、さわやかな印象を与えるポスターデザインの原画案を作成した。



(2) 地域の文化事業に参加

第16回坂井市民文化祭 丸岡地区展示会への出品

秋に開催された坂井市民文化祭に今年度も参加した。坂井市民文化祭は、10月末の土日に三国会場と丸岡会場で開催され、作品展示と芸能発表が行われている。多くの坂井市民が参加し、世代を超えた交流が行われている。搬入日には多くの市民の方がお見えになるので、年1回地域の方と接する貴重なイベントである。世代を超えた交流を通して、坂井市民の芸術文化を一堂に感じることができた。



今年度の作品展示会場は、高棕コミュニティセンターの2階であった。昨年度からこの展示会場になり、本校の書道部とMプロの活動紹介パネルとともに展示された。幼小中と離れた展示場所で、本校だけのスペースであった。

3. 成果について

地域に協力した活動を通して、部員たちのコミュニケーションを取る機会が増え、部員たちの成長に大きな影響を与えている。実際に取り組んでみると、部員たちは想像以上に壁にぶつかり、解決策を考えることを余儀なくされていた。はじめに思っていたこととは違うことに遭遇することで、計画する力や表現技術の向上などにつながっている。また、部員たちが手掛けたものが、地域に「かたち」として実際に残ることで、やり遂げた達成感などを味わうことができ、地域に対する愛着も根付くことになった。

4. 今後の課題と展望

地域からいろいろと依頼が来ることは、それだけ地域の学校として期待されていることの表れであり、地域の活動に参加できる活動が多くあることにより部員の大きな目標となり、地域のことをより深く理解する機会になっている。しかし、地域からいろいろと依頼が来ることはとてもありがたいことであるが、多くの活動に協力することで、文化祭の作品制作など、部の基本的な活動である個人の創作時間が奪われてしまうことが課題である。また、今年度は3年生が部員数全体の約半数を占めていたので、3年生が引退したことで活動人数がいきなり少なくなってしまった。活動人数が減ってしまったことで、特にシャッターアートの制作が進まなかった。活動を維持していくためには部員数の確保は不可欠である。部活動は主体的な活動であるので、部員たちが自分たちで考え、主体的に活動していくことを大切にしながら、今後も地域の活動に協力しながら、いろいろな活動に取り組んでいきたい。

吹奏楽部 ～地域とつながる「お城のまちのコンサート」～

1. ねらい

(1) 吹奏楽部員が地域に出向き、地域の方々と音楽の喜びを共有する

(2) 演奏会の企画、運営を部員の手で行うことで、地域とつながる力を育てる

令和2年度より、これまで行っていた「定期演奏会」の代わりに「お城のまちのコンサート」を丸岡の各地で実施している。30分～40分の短い演奏会を何度も行うスタイルで、気軽に音楽を楽しんでもらうことを大切にしている。

客層をリサーチして選曲を行い、小さな子どもからお年寄りまで幅広い年齢層に喜んでもらえるよう、レパートリーを増やしている。また、小さなカフェでは、ソロやアンサンブルを演奏するなど、場所に合わせた様々な演奏形態を工夫し、少人数ならではの強みを生かして活動中である。音楽で地域を盛り上げることを目標にしている。

2. 実践報告

(1) 令和3年度「お城のまちのコンサート」(コロナ禍で中止も含む)

第5回 お城のまちのコンサート 5月29日(土) in 城小屋マルコ

第6回 お城のまちのコンサート 6月5日(土) in いきいきプラザ霞の郷

第7回 お城のまちのコンサート 6月19日(土) in 丸岡バスターミナル

第8回 お城のまちのコンサート 7月26日(月) in 高椋児童クラブ

第9回 お城のまちのコンサート 7月27日(火) in 長畝児童クラブ

第10回 お城のまちのコンサート 7月28日(水) in 平章児童クラブ

第11回 お城のまちのコンサート 7月30日(金) in 明章児童クラブ

第12回 お城のまちのコンサート 10月30日(土) in たかむく古城ホール

第13回 お城のまちのコンサート 11月6日(土) in お天守前公園

第14回 お城のまちのコンサート 3月19日(土) in 丸岡バスターミナル

昨年度から続けてきたこの取り組みは少しずつ地域に認知されるようになってきた。



(2) 高校生ボランティアアワード2021参加

令和3年8月3日(火)11:00～

お城のまちの演奏隊の活動は SDGsの17の目標の中の「3. すべての人に健康と福祉を」「11. 住み続けられるまちづくりを」「17. パートナーシップで目標を達成しよう」に当てはまっている。広く知ってもらうためにボランティアアワードに参加し、プレゼンテーションを行った。

3. 地域の中で認められ、活動を継続していくために



連携システムを構築 ⇒ 持続可能な活動に！

4. 今年度、力をいれていること

(1) 現場主義で行動する

企画の段階から現場へ向かい、客層、予想される客数、選曲、演奏場所、控室、換気・消毒、動線などを確認しながら地域の人と一緒に演奏会を作り上げる。そこからたくさんの交流が生まれ、地域の活性化につながっていくと考える。また私たちが地域の皆さんから多くのことを学ぶことができる。

(2) 自分たちにできる事を工夫し、実践する

どうすれば地域のお客様に喜んでもらえるかを一番に考えて演奏会を作っていく。子どもたちが多く集まる場所では、アニメの寸劇やクイズ、ダンスをしたり、お年寄りの多い場所ではお年寄りとお話する場面を設けて関わりを持つなど、演奏+αの部分大切に。また、城小屋マルコカフェでは、喫茶の接客もさせていただく。従来の吹奏楽部の活動にとらわれない、幅の広い活動をしている。

(3) 自己満足で終わらせない お客様の声を次の演奏会に活かす

<お客様のアンケートより>

- ・皆さんがリズム取りながら、歌いながら聞いていました。これが本当の音楽ですね。
- ・「今日来てよかったね」ってお客さんが話していましたよ。
- ・私の母校であり、嬉しくもあり、楽しく聞かせて貰いました。応援しています。
- ・奏者が笑顔で楽しんでいるから、皆を楽しませている。もっと聞きたかった。



- ・一体感があって感動しました。ありがとう。
- ・演奏隊の温かい空気が心地よかったです。
- ・曲と曲の間がテンポよくて良かった。
- ・演歌・懐かしい歌をもっと聞きたい。何でもいいから弾いて！
- ・ジャズの定番は年寄りでも知ってるので、弾いて下さい。
- ・曲紹介、もっと、ゆっくりしゃべるといいです。
- ・毎回、バスタのお祭りの度に、演奏を楽しみにしています♪
- ・もっと地域を盛り上げる活動を続けてください。頑張れ！吹部！
- ・雨の中ダンスもしてくれてありがとう！お疲れ様！またお願いします。
- ・えんそうがとてもしょうずで、うまいし、次やる時がたのしみです。
- ・中学になったら、すいそうがくぶに入りたいです。



5. 演奏隊の振り返り・感想

<演奏隊の今未来手帳より>

- ・地域の方とたくさん話ができて、つながれたし、すごく楽しめた。
- ・嬉しい言葉をたくさんもらって、私たちがおこなっている活動の意味を実感できました。
- ・前日のリハーサルから地域の人が聞いてくれて、すごく温かいなと思いました。
- ・お客さんを元気にしていると同時に、私たちも元気をもらいました。
- ・年齢層にあった曲をするのは、すごく大事だなと改めて感じました。
- ・音楽と笑顔の溢れる「丸岡」にしたいです。
- ・ここまでハードな演奏会は初めてでした。でも今までで一番お客さんの反応が良かったです。
- ・常にいい演奏と笑顔を届けることを、心がけていく。
- ・雨が降っても「嫌だな」という感情は無く、楽しくできたと思う。
- ・もっと子ども達に喜んでもらえるように上手になりたい。選曲もいいものにしたい。
- ・小さい子がすごく喜んでくれて、一緒に踊ってくれた。それを見ていたら、演奏しながら嬉しくなって、もっと頑張るって上手なろうと思えた。
- ・たくさんの方が手伝ってくれたので、感謝したい。恩返しできるような演奏がしたい。
- ・演奏だけでなく、カフェ店員という貴重な経験ができた。またやりたい。



6. 次年度に向けて

次年度の目標は、保育園、児童クラブ、特別支援学校、老人福祉施設など活動の場を広げていきたい。今後も試行錯誤しながら行動に移すことを続けたい。

書道部

1. ねらい

地域振興に資する人材の育成

書道部は例年「坂井市民文化祭」での展示参加という形で、地域の方とつながる活動をしてきたが、令和元年度から本校で「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」が始まるのに伴い、他の形での地域とつながり、地域振興に協力する活動を模索し、実践してきた。

ここでは、書道部の3年間の取り組みについて述べる。

2. 実践報告

(1) 第21回のうね健康まつり書道パフォーマンス披露(令和元年5月26日)

のうね健康まつり実行委員会・まちづくり協議会からの依頼を受けて書道部員が揮毫した「令和」という文字で、巨大パネルを作成していただき、それを分割したパネルを長畝地区の住民の方が長畝小学校のグラウンド上で組み合わせて、そのパネルの横に「丸岡高校書道部」と揮毫するパフォーマンスを行った。当日は新聞社の取材もあり、ドローンでの住民と完成したパネルの撮影もあり、大変盛り上がりのある楽しいイベントであった。地域の方々からも励ましの言葉をいただき、参加した2名の部員は、今後もこのようなイベントに積極的に参加して、町おこしに協力したいと意欲を見せていた。



(2) 丸岡城プロジェクションマッピングナイト～ヒカリ結び～(令和3年3月～)

丸岡城をプロジェクションマッピングでライトアップするのに伴い、お天守前公園の所定の場所に立つとこれまでの一筆啓上賞作品がランダムに出現するインタラククションを整備する事業に、作品の原稿揮毫という形で協力させていただいた。点灯式には書道部部长が立ち会って取材を受け、その様子が動画で配信された。自分の言葉が動画になって、丸岡城に観光客を誘致できることに感激している様子であった。



(3) 書け、響け、描け～これが私の世界～(令和3年3月20日～28日)

美術イラスト部、書道部、吹奏楽部、放送部、地域協働部などの本校生徒が丸岡バスターミナル交流センターでのイベントに参加して、地域の方々と交流した。書道部は交流センター内での作品展示に協力させていただいた。3月20日は、建物の軒下での屋外展示になり、イベントに訪れた多くの方々に見ていただくことができた。激励されて、今後の活動の活力になった生徒もいた。

今回は、5つの文化部合同で、発表・展示・運営で地域の活動に参加できて、地域に密着した学校であることを生徒たちも再認識し、地域の方々にもアピールできたことを実感した。



(4) 丸岡城石段設置の行灯の一筆啓上優秀作品揮毫(令和3年7月～)

坂井地区の高等学校の書道部や書道選択者が、一筆啓上優秀作品を揮毫したものをもとに、丸岡城の石段に設置する行灯を作るという企画に参加させていただいた。10月1日の点灯式には、3校の書道部部長が坂井市のご来賓の方々と協力して、行灯の初点灯のボタンを押した。

「高校生たちも丸岡城を盛り上げる一員であり、地域の担い手であるという自覚を持てるようになってほしい」という、丸岡町の方々の熱い思いが伝わるイベントであった。式の後には、自分たちが揮毫した行灯を一つ一つ確認しながら石段を登り、お城に投影された新しいプロジェクションマッピングを観賞して、解散となった。若者への熱いメッセージが詰まったすばらしい作品に、生徒たちも感動していた。



地域協働コーディネーター

1. 地域協働コーディネーターとは

本校では、本年度から坂井市の支援を受け、地域協働コーディネーターを配置している。主に、授業や部活動において、地域の企業や団体、多様な人材と生徒の連携を促進する役割を担っている。

2. 実践報告

(1) 三国南小学校 総合学習の支援

三国南小学校の5年生に対してふるさと学習の授業支援を行う、NPO 法人「まちづくりカレッジ Sakai」から、地域協働コーディネーターを通して協力依頼があった。同校では自分たちで育てた無農薬米を使用し、オリジナルスイーツを作る活動に取り組んでいる。10月26日、地域協働部の生徒が講師となり、丸岡産そば粉で開発した「石垣ポーロ」や、「おもいで食堂」での販売経験などを伝えた。児童は大変興味を示しており、今後の学習への意欲を高めていた。



(2) 丸岡高校グローバル出前講座



主に坂井市内の小中学生・一般市民を対象に、国際理解や SDGs の講座を行い、地域協働コーディネーターが青年海外協力隊として活動していたセネガル共和国の文化紹介や体験談などをお話して頂いた(今年度依頼7件、受講者数 283 名)。受講者の中には、丸岡町でボランティアに取り組まれている方も多く、海外ボランティアと地域ボランティアという双方の視点から、参加者とともに、地域の在り方やまちづくりについて考える機会にもなった。

<参加者の感想>

- ・ボランティアの根拠を再度確認できる貴重な時間でした。ボランティアには必ず相手がありますが、「人」それぞれ考え方は異なること、互いの違いを受け入れていかなければならないことを痛感しました。
- ・ジェンダーの視点を取り入れて、当センターの趣旨に沿った内容でわかりやすい講座でした。
- ・セネガルという国のイメージが思っていたものと違い、新しい発見がありました。

(3) 青年海外協力隊と語る会 (オンライン)

福井県青年海外協力隊等を支援する会、JICA 北陸、本校が連携し、2月7日(月)に開催された。パネリストとして、現在マダガスカルで柔道を教えている方、ウズベキスタンで日本語を教えていた方を迎え、現地の文化紹介や活動内容をお話し頂いた。当日は、コロナ禍による休校となったが、生徒は各自の自宅からオンラインで参加した。生徒からは「このような活動があることを知り、興味を持った」、「将来は海外で日本語を教えてみたい」などの感想があり、多様な生き方があることを学んでいた。



(4)まるおか支部社会福祉協議会委員会

坂井市社会福祉協議会まるおか支部からの依頼を受け、2月15日(火)に、本校校長、教諭とともに出席した。当委員会は、丸岡町内の福祉団体や老人クラブ、ボランティア団体等で構成され、丸岡高校生との連携を模索している。委員会では、令和4年度から本校に新設されるコースの説明を行い、参加者が丸岡高校生と実現してみたいことを考える内容であった。コロナ禍のため、規模を縮小しての開催となったが、本校の目指すビジョンや地域協働の取り組みなどについて、地域住民に共有できたことは有意義であった。参加者からは、丸岡高校生と協働したい思いはあるが、具体的にどうしてよいか分からない、という声も聞かれ、地域協働コーディネーターとしてその窓口を拡大する必要があると考えさせられた。

(5)総合的な探究の時間の補助

①SDGs(持続可能な開発目標)の学習

本校2年生のSDGsの学習において、講義やワークショップを担当した。海外と丸岡を比較しながらそれぞれの課題に気付かせる活動を取り入れ、世界で起きている出来事を自分事として捉えられるよう働きかけた。また、外部講師によるカードゲーム「SDGs de 地方創生」体験の企画、講師との調整を行い、本校の学びの特色や地域協働の取り組み内容を事前に講師に伝え、それらを反映した授業を実施していただくことが出来た。



②「地域活性化を目指して」

2,3年生の生徒が取り組む、地域活性化案の作成・実行に向けて、学習の補助を行った。生徒の活動に対して、地域の団体や人材を協働パートナーとして紹介した。また、個に応じた手立てとして、その生徒が必要としている地域情報やイベント・セミナーの案内など、活動のヒントを提供した。

(6)広報活動(Facebook、ホームページ英訳)

本校のホームページ記事を英訳し、外国人住民や海外に向けて情報発信した。また、Facebook ページ「まるおかグローバルひろば」を運営し、日本語・英語による情報発信を行った。本校の取り組み紹介だけでなく、丸岡の名所や地域の行事、地域の魅力などのPRも行った。



3. 成果と課題

年間を通して、地域の多様なまちづくりプレイヤーの方たちと出会い、地域愛や丸岡高校への想い入れを感じ取る場面が多々あった。少子高齢化が進む中、地域課題の解決につながるのは、生徒の郷土愛ではないかと考える。将来を見据え、高校生時代により多くの出会い、経験が生まれるように、生徒と地域住民が自然な形で関わりを持ちながら、意見を述べ合い、協働につながるような交流の場を地域内で生み出していかないと考えている。また、坂井市でも多文化共生推進の機運が高まっており、生徒のグローバルな視点を磨くために、地域に根差した活動を行う坂井市国際交流協会とも連携を深めていきたいと思う。

丸高グローバル通信

1. ねらい

学校と地域を結ぶ通信として発行している。丸岡高校の現状と「学び」の取り組みを、中学生を含む多くの地域の方々を知っていただき、地域とともに成長していきたいと考えている。

2. 実践報告

(1)発行計画について

30号(5月10日)	グローバル担当	35号(9月30日)	図書渉外部
31号(5月31日)	生徒指導部	36号(10月29日)	保健部
32号(6月30日)	進路指導部	37号(11月30日)	グローバル担当
33号(7月28日)	教務部	38号(1月14日)	1年学年会
34号(8月31日)	3年学年会	39号(2月28日)	2年学年会

平成30年度から始まった「丸岡高校通信」から通算すると、今年度は30号からのスタートとなった。月1回の発行は、担当者を固定化せず各校務分掌と各学年に割り振り、学校全体でグローバル通信を作り上げていった。

(2)通信の配布先

中学校	(坂井市内)丸岡中学校 丸岡南中学校 坂井中学校 春江中学校 *丸岡中学校、丸岡南中学校には、3年生全員に配布している。 (坂井市外)森田中学校 金津中学校 芦原中学校 灯明寺中学校
公共の施設	坂井市役所丸岡支所 丸岡バスターミナル 坂井市役所本庁 JR丸岡駅 丸岡図書館 坂井図書館 春江図書館
コミュニティーセンター	城のまちコミュニティーセンター のうねの郷コミュニティーセンター 高椋コミュニティーセンター 磯部コミュニティーセンター 高椋東部コミュニティーセンター 鳴鹿コミュニティーセンター
校内	本校生徒全員 来賓玄関

3. 工夫した点や改善点について

<サイズの変更>

A3判からA4判に変更し、掲示版のスペースが小さい設置場所にも掲示可能になった。A3判の通信は希望する設置場所のみ配布することにした。サイズを小さくした分、発行部数を増やした。

<配布手段の変更>

従来は教職員が分担して設置場所に持参していたが、今年度は坂井市地域協働コーディネーターに、坂井市役所関係の配布を一括してお願いした。コミュニティーセンターへの配布は、一部を除いて市役所のポスト経由で配布することにした。

<配布先の変更>

在校生や保護者向けには学校のホームページ上に掲載していたが、地域の設置場所の利用は本校生徒の保護者が中心であったため、全校生徒に紙媒体で配布し、一部の設置場所を廃止した。また地域の中学校にはクラス数分の配布から、中学3年生全員への配布に変更した。

<生徒の顔が見える工夫>

中学校では、卒業生の記事が掲載されていると、手に取って熱心に読んでいただけることが分かったため、生徒の顔写真つきインタビュー記事を多く掲載するようにした。



こんにちは！4月に入り、新入生を迎えて新たな1年がスタートしました。第30号では、3月から4月にかけての丸高生の校内外での活動を紹介します。

<卒業式>

令和3年3月2日(火)、第73回卒業証書授与式が行われ、卒業生111名が丸岡高校を巣立っていきました。新型コロナウイルス感染拡大防止のための措置で、式の内容を変更しての対応となりましたが、厳粛で感動的な卒業式となりました。



<研修旅行>

3/15(月)、16(火)、1泊2日の日程で、第2学年の学年行事を行いました。1日目は、スキーコース、スケートコース、ツリーピクニックコースに分かれ、自然の中で、友人と一緒に思いっきり楽しみました。2日目は、クラスごとに分かれ、絵付体験やいちご狩り、魚さばき体験やガラス細工作成など、充実した時間を過ごすことができました。夜は、芦原温泉清風荘にて、一棟貸切や大浴場時間貸切など、細心の感染症対策をおこなって宿泊しました。



<中間報告会>

3月23日(火)一昨年度より文部科学省からの指定を受けている「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」の中間報告会を開催しました。13:00からは地域協働部や放送部、ESS部や吹奏楽部などが、今年度のグローバルな取り組みについて発表しました。また、学校設定科目であるグローバル・スタディー英語や地域活性化プロジェクトについても活動報告を行いました。14:00からは、各会場に分かれて、1年生は「宝を地域と未来につなげよう-課題考察とその解決に向けて-」というテーマのもと、ポスターセッションを、2年生は「地域活性化を目指して」という全体のテーマのもと、各々が進路に応じたテーマを設定し、探究活動を進めている中間報告をおこないました。ご来賓の方々のアドバイスを参考にして、次年度の探究活動をより良いものにしていきたいと思ひます。ご協力くださった関係者の方々、誠にありがとうございました。



SDGs(持続可能な開発目標)は2015年に国連で定められた17の目標です。より良い地球をつくるため、世界の全ての国や人々が取り組む必要があります。

2年生はSDGsの視点も取り入れて発表しました。



<入学式>

4月7日(水)令和3年度入学式を挙行し、108名の新入生を迎えました。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。



<部活動紹介>

新入生を対象に、各部活動が活動日や内容、部の特色をPRしました。



生徒会長の言葉

私は、生徒が主体となり学校を作り上げていきたいと考え、生徒会長に立候補しました。丸高生の意見を尊重し、一人一人が過ごしやすい学びの場となるよう貢献できたらと考えています。『みんなが主人公』の学校を丸高生のみんなと作っていききたいと思ひます！ 生徒会長 3年 吉岡日菜多さん(坂井中出身)

<地域との協働の様子>



はッピーすまんさんと、丸岡城周辺のごみ拾いをしました。

地域の方からそば打ちを学んでいます。

3月20日(土・祝)、丸岡バスターミナルでのイベントに参加しました。

<参加した部活動>

- ① 書け、響け、描け～これが私の世界～美術イラスト部、書道部
- ② お城のまちのコンサート吹奏楽部、放送部
- ③ 運営ボランティア 地域協働部他

<丸岡城プロジェクトマッピングナイト～ヒカリ結び～>

お天守前公園の演出に、書道部の生徒が書いた一筆啓上の作品が写し出されています。ぜひご覧になられてみてはいかがでしょうか。



私たちが書いたこの字が、デジタルとなって変わってゆくの、とても興味深く、嬉しく思ひます。私自身も普段から手紙を書いているのですが、手紙だからこそ、普段伝えられない想いだったり、人や物などいろんなものに対して感謝できる、とてもよい場だと思ひます。 書道部部長 3年 東角奈星さん(丸岡中出身)



<令和2年度卒業生進路状況>

4年制大学	短期大学	専門学校	就職	その他	合計
60	7	26	13	5	111

卒業生メッセージ

丸岡高校で学んだことは地域と繋がる楽しさです。地域の方々とボランティアに参加し、たくさんコミュニケーションを取りました。自分の中の世界が広がった良い経験でした。その経験を今の建築の勉強にも活かしています。

福井大学 工学部 建築・都市環境工学科 合格 津戸新太さん(丸岡南中出身)



◎地域の方々からのご意見、高校生とやってみたいこと等ございましたら、丸岡高校まで是非お声かけをお願いいたします。 TEL 0776-66-0160 (丸岡高校グローバル事務局)



こんにちは！第31号は先日行われた春季高校総体の様子を中心にお伝えします。

今年度の総体では、サッカー部と新体操部（個人・団体）が優勝、剣道部が女子団体2位、男子団体3位に入賞、男子個人前田侑輝さんが3位入賞を果たしました。また北信越大会に、剣道部男女団体、男子個人前田侑輝さん、女子個人谷田ひよりさん、東舞優さんが出場、サッカー部が第3位入賞、新体操部が団体5位に入賞、個人総合において尾谷ジェニファーアマラチさんが4位入賞を果たしました。



女子ソフトテニス部



女子バレー部



男子卓球部



女子バドミントン部



剣道部



男子バスケットボール部



新体操部



サッカー部

部活動インタビュー ～高校総体、北信越大会を終えて～

剣道部 キャプテン 3年 前田 侑輝さん（丸岡中出身）

僕は約2年間剣道部で稽古に励むことができてとても誇りに思っています。練習は厳しく辛かったですが、その中にやりがいや達成感があり、仲間との絆も深めることができました。県総体では結果を残せて、少しは恩返しできたと思います。



新体操部 キャプテン 2年 百目鬼 彩羽さん（昭和中〔東京都〕出身）

新チームで初の試合となり自分たちの課題を見つけることができました。全国高校総体ではレベルを上げた演技構成で踊りきり、全国上位を目指して頑張りたいと思います。

サッカー部 キャプテン 3年 横山 潤成さん（丸岡南中出身）

このコロナ禍の中でも地元でインターハイが開催されることに感謝して、応援して下さる丸岡のみなさんに恩返しができるよう、精一杯頑張ります。



地域や海外との協働・探究活動など



<県内留学生との交流>

3年生が福井ランゲージアカデミーの生徒と交流しました。総合的な探究の時間での取り組みに対して外国人の視点でアドバイスをいただきました。



<台湾の高校生との意見交換>

2年「グローバルスタディ英語」では台湾の福誠高校とオンラインで交流しました。この様子は台湾のニュースでも取り上げられました。



<マイまちづくりプランを地域の方へ発表>

地域協働部の生徒が考えたプランを地域の方に発表し、アドバイスいただきました。

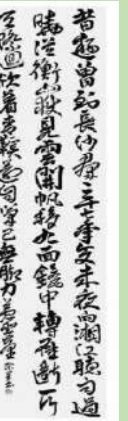


<第1回丸高カレッジ>

6月7日に「まるおかバスターミナル交流センター」で開催されました。7月から、さかいケーブルテレビで放送予定です。

祝！坂井市賞受賞

本校3年生の東角奈星さん（丸岡中出身）が県書道展にて、入賞作品175点の中から「坂井市賞」を受賞しました。審査員からは「強さと温みのある線質に日ごろの鍛錬を感じる」と講評をいただきました。東角さん、おめでとうございます。（右）東角さんの作品



◎地域の方々からのご意見、高校生とやってみたいこと等ございましたら、丸岡高校まで是非お声かけをお願いいたします。TEL 0776-66-0160（丸岡高校グローバル事務局）



こんにちは！第32号は6月末から7月にかけての学校行事や、丸高生が参加した様々な活動を紹介します。

<球技大会>

- 1年生：7月8日（木）
- 2年生：7月7日（水）
- 3年生：7月9日（金）

本校の第一体育館にて、球技大会を開催しました。最後まで大きな盛り上がりを見せ、クラスの親睦を深める機会になりました。3年生は今回が最後の球技大会となりました。



総合的な探究の時間の様子

<2年生>

SDGs（持続可能な開発目標）の学習では4名の「SDGs 地方創生カードゲーム」公認ファシリテーターを招いて、カードゲームを実施しました。ゲームを通して、まちづくりにおけるSDGsの視点や協働の大切さなどを学びました。

<3年生>

地域活性化を目指す取り組みの実践に向けて、地域課題の背景を調べたり、アンケートやヒアリングなどを行ったりしました。また地域の団体や企業と協働しながら課題解決に向けた活動を考え、実践しています。



グローバルスタディ 社会の授業で感じたこと

3年 加藤 司さん（丸岡中出身）

この授業では主にSDGsについて学習しています。授業では毎回タブレットを使います。先生から出された質問に関するページを見て考えたり簡潔にまとめたりしています。この授業を通して今の世界の状況についての関心が高まりました。今までとは少し違った授業で先生たちも明るく楽しいです。



地域との協働・探究活動など

<吹奏楽部お城のまちのコンサート>

6月19日（土）、丸岡バスターミナルで開催されたイベントにて、吹奏楽部と放送部が心温まる素敵な音楽をお届けしました。また地域協働部やボランティアの生徒も参加し、受付や会場運営などを手伝いました。

3年 津田 桃子さん（丸岡中出身）

私達吹奏楽部は、地域の方々のためのコンサートを月に2回ほど行っています。コンクールと違い、見に来てくれる方との距離が近くみなさんが温かいので、地域の人々の声を直接聞くことができ、それが私達のやりがいにもなっています。これからも地域に根差した活動を行って、地域の方に元気を与えられる部活にしていきたいです。



BEAU LABO に参加して

3年 川津 快人さん（森田中出身）

僕は、国際問題に興味があり、その中でも紛争や貧困についてラボで取り組みました。ラボのメンバーからは、さまざまな知識を取り入れることができました。また、広い視野を持って物事を見ることもできました。BEAUで学んだことを今後の活動に活かしていきたいです。



福井大学ラウンドテーブルに参加して

3年 清水 大河さん（丸岡南中出身）

僕は今回で2回目の参加でした。毎回決められたテーマについて、県内だけでなく県外の方とも話せるので、様々な視点での意見を聞くことができます。具体的に、わかりやすく相手に伝える難しさを改めて実感しましたが、大変有意義な時間になりました。



ESS 部の取り組み

「称念寺」紹介動画英語版の制作

まちづくり協議会の方に、完成動画をチェックしていただきました。動画を通じて世界中の方々に、地域の魅力を発信していく活動をしています。



「福祉サービス情報英語版パンフレット」制作

坂井市市民福祉課の方に、英語版パンフレットを制作してお渡ししました。地域に住む外国籍の住民にも福祉情報が届くよう工夫しました。



◎地域の方々からのご意見、高校生とやってみたいこと等ございましたら、丸岡高校まで是非お声かけをお願いいたします。 ☎0776-66-0160（丸岡高校グローバル事務局）